

平成17年度

掛之上遺跡43・46・48

— 写真図版編 —

2006

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 17 年度

掛之上遺跡43・46・48

－ 写真図版編 －

2006

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成17年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛^{かけ}之上^{のうえ}遺跡の第43・46・48次発掘調査報告書写真図版編（まちづくり交付金民間築造促進事業分報告書）である。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の鈴木茂、溝口文康、小池恵子、藤原資郎、藤田佳三、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中写真については株式会社フジヤマが撮影し作成したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第46次発掘調査区北半空中写真全景
(2) 第46次発掘調査区北半空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第46次発掘調査区北半SH1北半 (2) 第43次発掘調査区SH13
- 巻頭カラー図版3 (1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(2) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
- 巻頭カラー図版4 (1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(2) 第46次発掘調査区南半SH1南半
- 巻頭カラー図版5 (1) 第46次発掘調査区南半SH3 (2) 第48次発掘調査区空中写真全景
- 図版1 (1) 第43次発掘調査区空中写真全景 (2) 第43次発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) SH13 (2) SB10
- 図版3 (1) SB10 (2) 第43次発掘調査区南拡張区全景
- 図版4 (1) 第46次発掘調査区北半空中写真遠景 (2) 第46次発掘調査区北半空中写真全景
- 図版5 (1) 第46次発掘調査区北半空中写真全景 (2) 第46次発掘調査区北半全景
- 図版6 (1) SH1北半 (2) SH1北半
- 図版7 (1) SH1-P10土層 (2) SH1-P10
- 図版8 (1) SH1-P11土層 (2) SH1-P11
- 図版9 (1) SH1-P12土層 (2) SH1-P12
- 図版10 (1) SH2 (2) SH2
- 図版11 (1) SH2 (2) SH2
- 図版12 (1) SH2-P16 (2) SZ6~9
- 図版13 (1) SZ1・2・6~9・12 (2) SZ8・9
- 図版14 (1) SZ1・2 (2) SZ6
- 図版15 (1) SZ6西溝 (2) SZ6西溝土層
- 図版16 (1) SZ7 (2) SZ7
- 図版17 (1) SZ7南西コーナー部分 (2) SZ7溝内土坑
- 図版18 (1) SZ8 (2) SZ8南溝土層
- 図版19 (1) SZ8東溝土層 (2) SZ8北溝出土土器
- 図版20 (1) SZ8南溝出土土器 (2) SZ9
- 図版21 (1) SZ9西溝土層 (2) SZ9南溝土層
- 図版22 (1) SZ11 (2) SZ10
- 図版23 (1) SZ12 (2) SD7
- 図版24 (1) SD7土層 (2) 調査区西端近世遺構群
- 図版25 (1) 法多道側溝 (2) SK6
- 図版26 (1) 調査区北東端の近世末期土坑群 (2) SK22
- 図版27 (1) SD11 (2) SP3
- 図版28 (1) SP3出土柄鏡 (2) 重機による表土掘削作業風景
- 図版29 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量風景

- 図版30 (1) 第46次発掘調査区南半空中写真遠景 (2) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
- 図版31 (1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景 (2) SH1・3
- 図版32 (1) SH1 (2) SH1
- 図版33 (1) SH1-P15土層 (2) SH1-P17土層
- 図版34 (1) SH1-P19土層 (2) SH1-P19
- 図版35 (1) SH1-P21土層 (2) SH1-P23土層
- 図版36 (1) SH1-P23 (2) SH3
- 図版37 (1) SH3 (2) SH3-P2土層
- 図版38 (1) SH3-P5土層 (2) SH3-P5
- 図版39 (1) SH3-P7土層 (2) SH3-P7
- 図版40 (1) SH3-P9土層 (2) SH3-P9
- 図版41 (1) SH3-P11土層 (2) SH3-P11
- 図版42 (1) SH3-P13土層 (2) SH4
- 図版43 (1) SH4-P55・58~60 (2) SH3-P54土層
- 図版44 (1) SH5 (2) SH9
- 図版45 (1) SH9 (2) SZ9
- 図版46 (1) SZ9北溝出土土器 (2) SZ12
- 図版47 (1) SZ12 (2) SZ12南溝土層
- 図版48 (1) SZ12西溝土層 (2) SZ13
- 図版49 (1) SZ13 (2) SZ13
- 図版50 (1) SZ13南東コーナー部分 (2) SZ13東溝
- 図版51 (1) SZ13東溝2土層 (2) SZ13東溝1土層
- 図版52 (1) SZ13西溝土層 (2) SZ13南溝土層
- 図版53 (1) SZ13東溝出土土器 (2) SZ13東溝出土土器
- 図版54 (1) SZ13南溝出土土器 (2) SZ13南溝出土土器
- 図版55 (1) SZ13南溝出土土器 (2) SZ13南溝出土土器
- 図版56 (1) SZ14 (2) SZ14
- 図版57 (1) SZ14 (2) SZ14北溝
- 図版58 (1) SZ14南溝土層 (2) SZ14西溝土層
- 図版59 (1) SZ14北溝出土土器 (2) SZ14北溝出土土器
- 図版60 (1) SZ14北溝出土土器 (2) SZ14北溝出土土器
- 図版61 (1) SZ14北溝出土土器 (2) SZ14北溝出土土器
- 図版62 (1) SZ14北溝出土土器 (2) SZ14南溝出土土器
- 図版63 (1) SZ14南溝出土土器 (2) SZ14南溝出土土器
- 図版64 (1) SZ14南溝出土土器 (2) SZ15
- 図版65 (1) SK24~26 (2) SK28
- 図版66 (1) SK35・36 (2) SK37
- 図版67 (1) 第46次発掘調査区北区空中写真全景 (2) 第46次発掘調査区北区空中写真全景
- 図版68 (1) SD7北溝 (2) SK39
- 図版69 (1) SD29 (2) 人力による作業風景

図版70 (1) 重機による表土掘削作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量風景

図版71 (1) 第48次発掘調査区空中写真全景 (2) 第48次発掘調査区空中写真全景

図版72 (1) 第48次発掘調査区全景 (2) S H 5

図版73 (1) 柱穴 (2) S Z 15

図版74 (1) S Z 15北溝土層 (2) S Z 15南溝出土土器

図版75 (1) S Z 15 S D 15・16・29 (2) S Z 15 S D 20

図版76 (1) 土坑群 (2) 重機による表土掘削作業風景

図版77 (1) 八木・岡田邸立会調査 (2) 八木・岡田邸立会調査出土土器

※表紙写真 第48次発掘調査区南半大型掘立柱建物（奈良時代の郡衙正倉院に係わる関連建物と思われる。2棟が直列して南北方向に並ぶ建物である。北より）

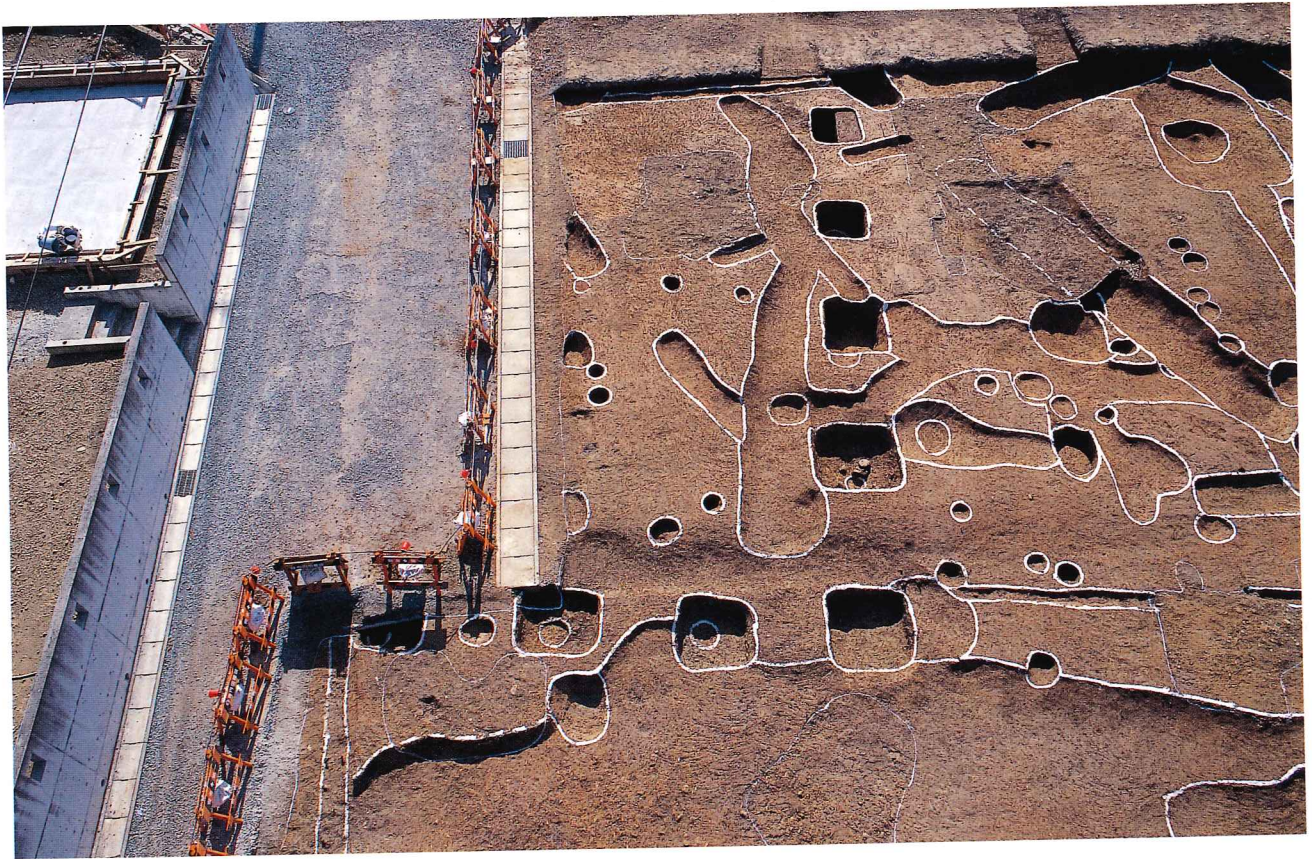
写真図版



(1) 第46次発掘調査区北半空中写真全景
(弥生中期の方形周溝墓や大型掘立柱建物が見られる。北より)



(2) 第46次発掘調査区北半空中写真全景（上が北方向である。真上より）



(1) 第46次発掘調査区北半SH1北半
(奈良時代の大型掘立柱建物で、郡衙正倉関連の建物と見られる。北より)



(2) 第43次発掘調査区SH13
(奈良時代の大型掘立柱建物で、郡衙正倉関連の建物と見られる。上が北方向である。真上より)



(1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(弥生中・後期の方形周溝墓や大型掘立柱建物が見られる。上が東方向である。真上より)



(2) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(奈良時代の大型掘立柱建物が直列に配置されている。北より)



(1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景（西より）



(2) 第46次発掘調査区南半SH1南半
(奈良時代の長殿風の大型掘立柱建物で、郡衙正倉関連の建物と見られる。北より)



(1) 第46次発掘調査区南半SH3
(奈良時代の大型掘立柱建物で、郡衙正倉関連の建物と見られる。西より)



(2) 第48次発掘調査区空中写真全景
(弥生中期の方形周溝墓や奈良時代の大型掘立柱建物が見られる。上が北方向である。真上より)



(1) 第43次発掘調査区空中写真全景
(古墳後期の竪穴住居と奈良時代の大型掘立柱建物が見られる。東より)



(2) 第43次発掘調査区空中写真全景
(竪穴住居については遺構調査を行っているが、掘立柱建物は確認調査で遺構の調査を行っていない。西より)



(1) SH13

(奈良時代の総柱の大型掘立柱建物で、郡衙正倉中枢建物群西辺の倉庫建物の一つと思われる。西より)



(2) S B10 (古墳後期の竪穴住居である。北より)



(1) S B10 (壁溝の一部や柱穴は確認できたが残りは良くない。西より)



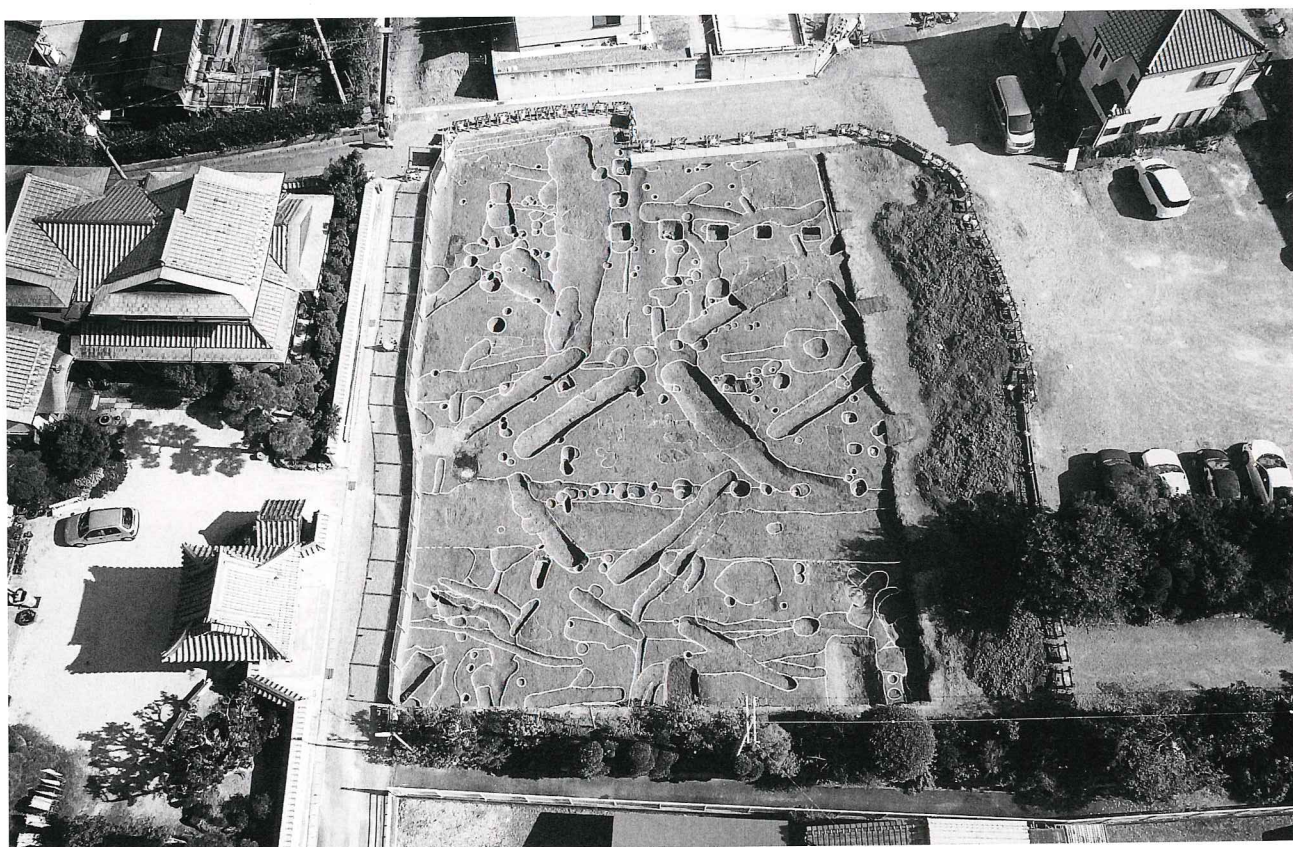
(2) 第43次発掘調査区南拡張区全景 (S H13が引き続き確認できた。東より)



(1) 第46次発掘調査区北半空中写真遠景
(上奥が磐田原台地、右上が原野谷川で、手前の住宅地が掛之上遺跡の立地する段丘である。東より)



(2) 第46次発掘調査区北半空中写真全景
(弥生中期の方形周溝墓や奈良時代の大型掘立柱建物、区画溝などが重複して発見された。南より)



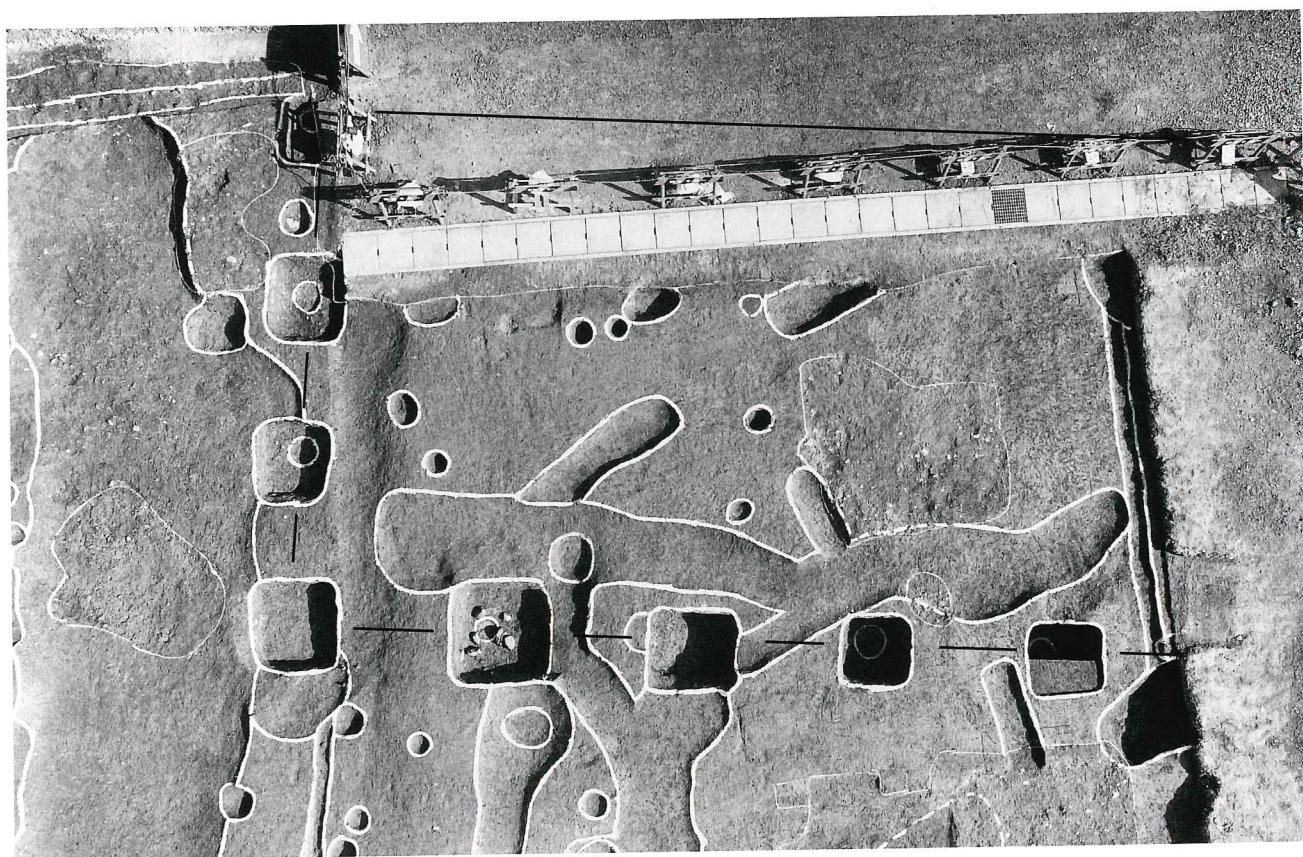
(1) 第46次発掘調査区北半空中写真全景（大型掘立柱建物2棟が区画溝と並行して発見された。西より）



(2) 第46次発掘調査区北半全景（南より）



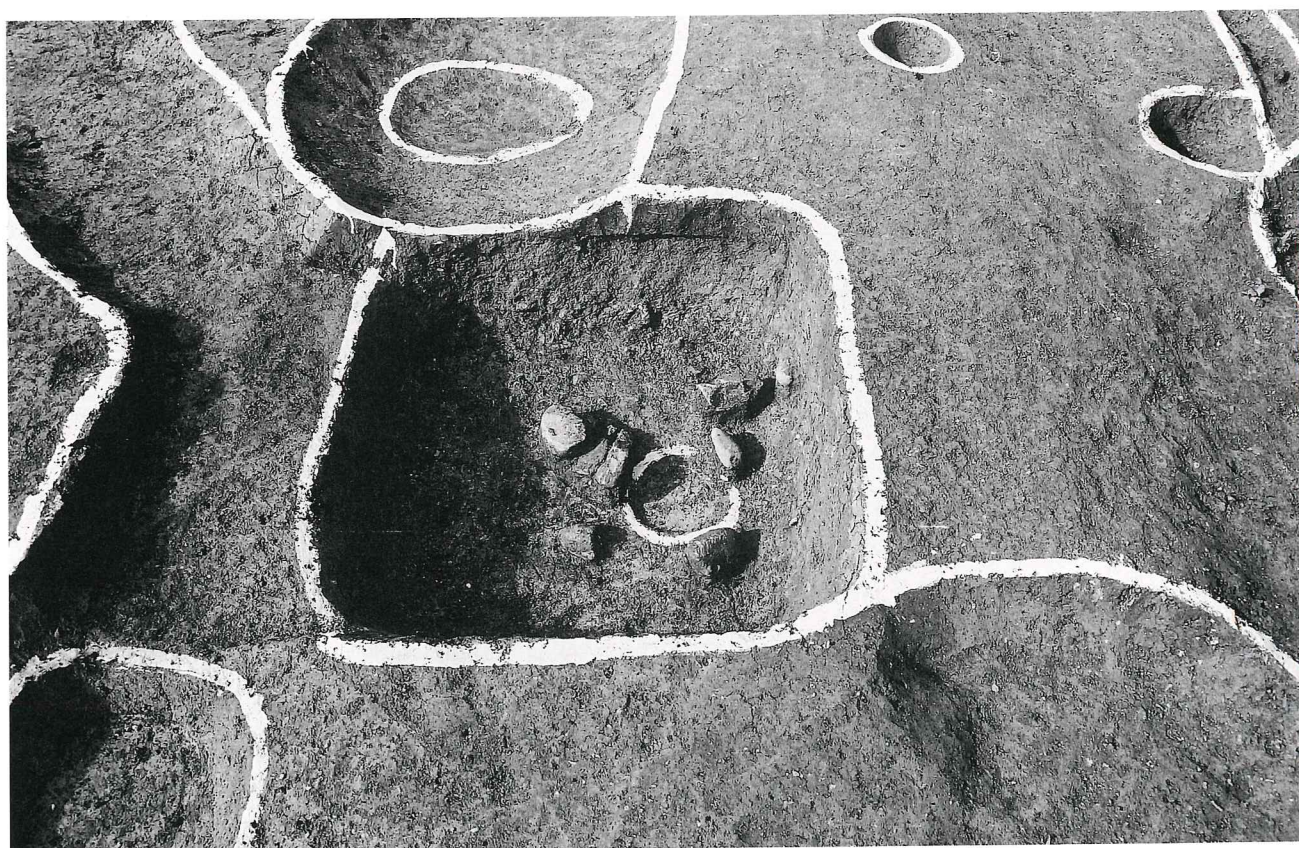
(1) SH1 北半 (主軸を南北方向にとる長殿風の大型掘立柱建物。南より)



(2) SH1 北半 (側柱式の大型建物である。左が北方向である。真上より)



(1) SH1-P10土層（土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より）



(2) SH1-P10

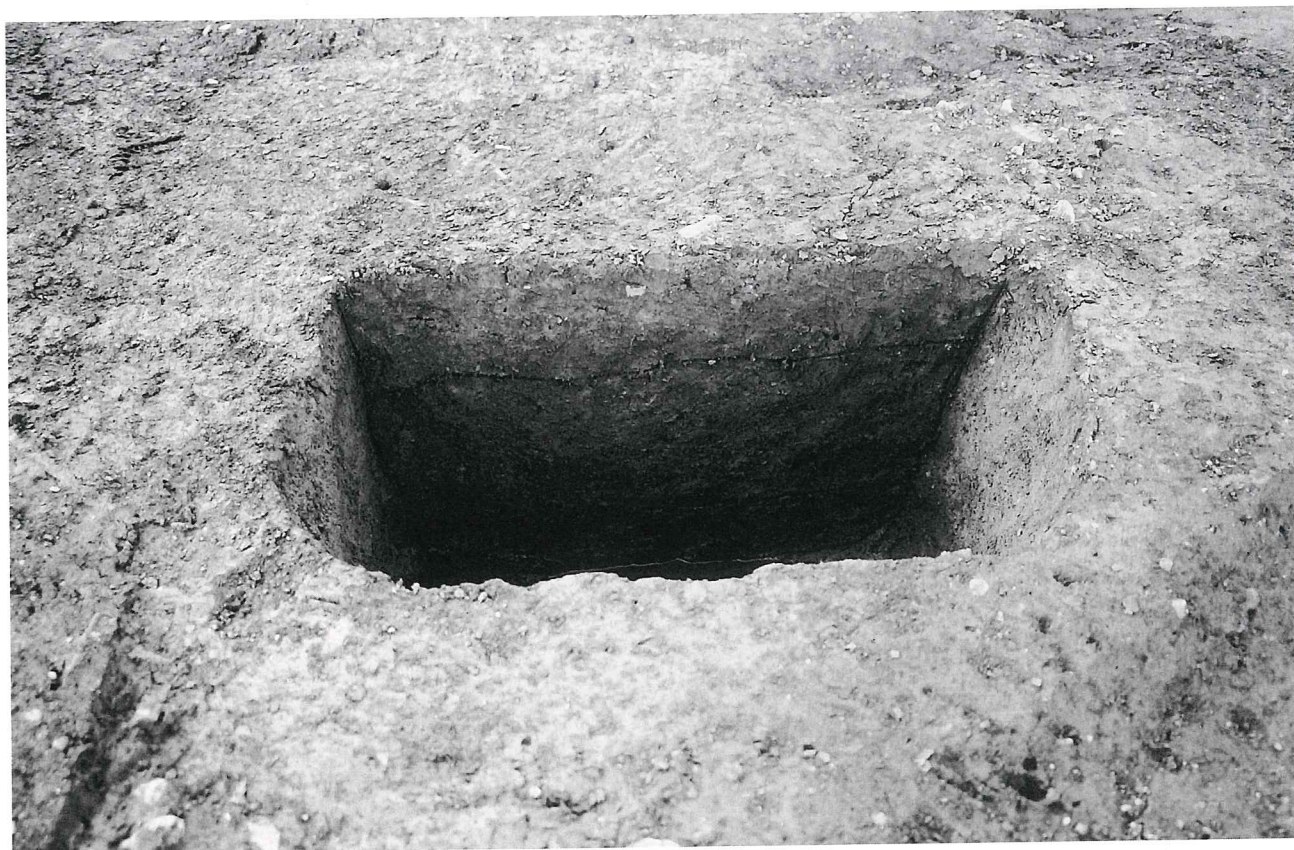
（底に直径40cmほどの柱痕跡が確認でき、根巻石も少しであるが見られる。東より）



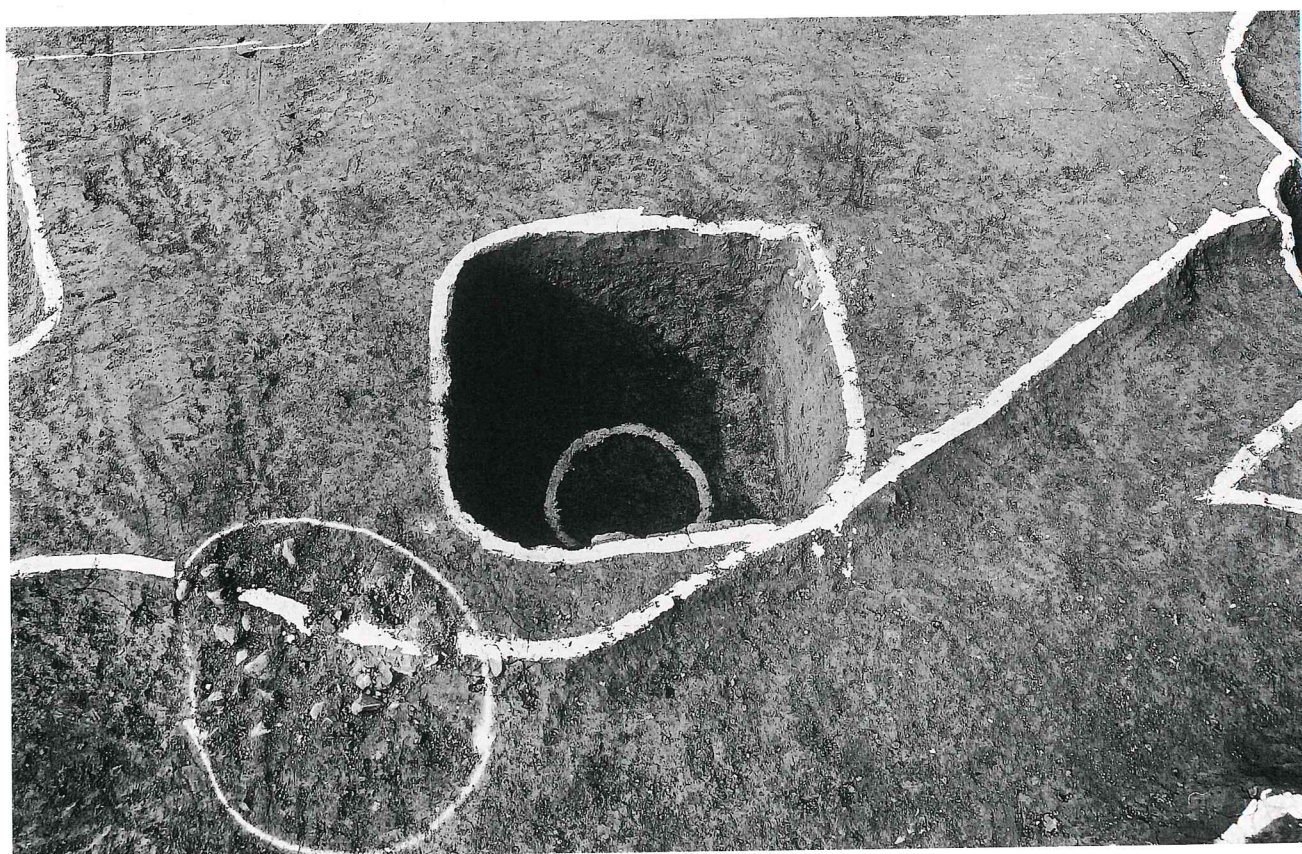
(1) SH1-P11土層（土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より）



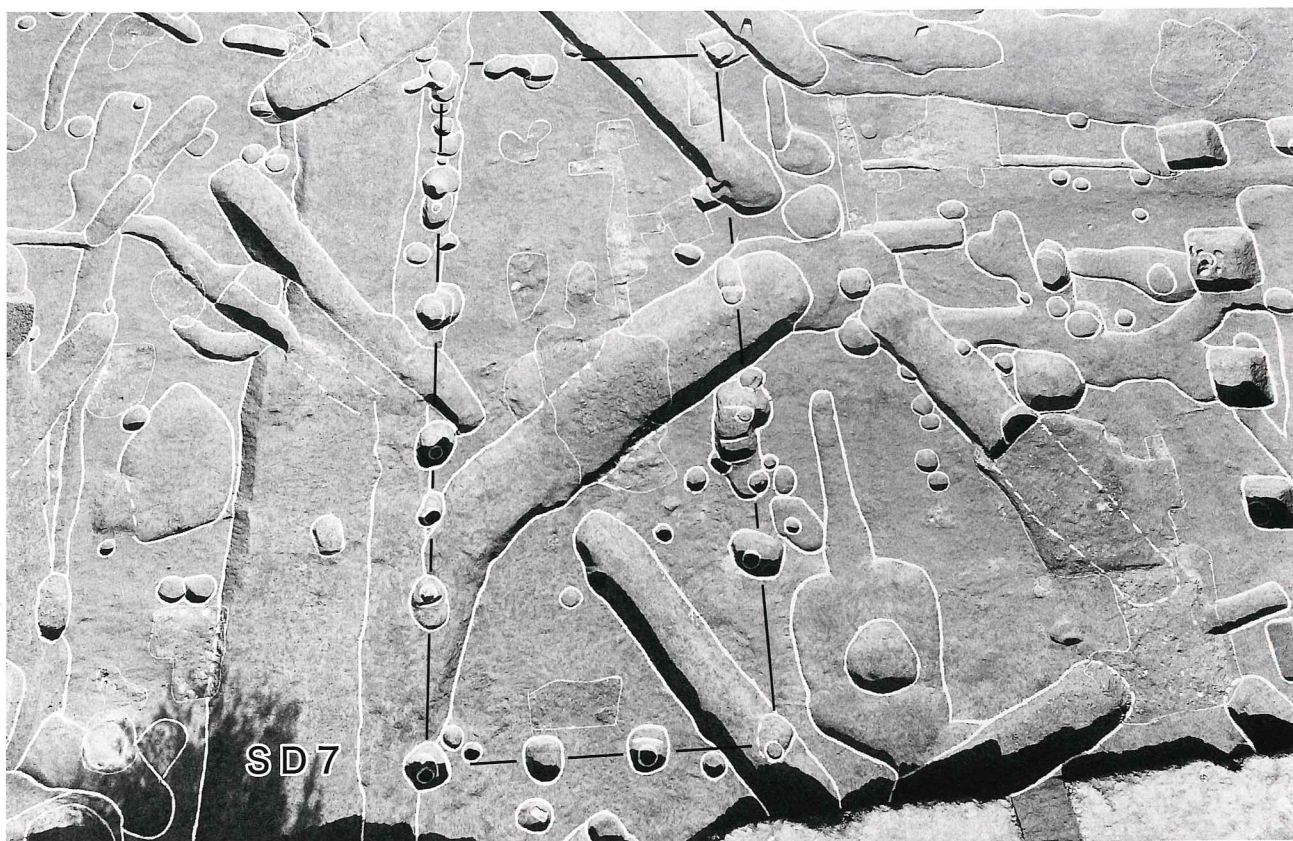
(2) SH1-P11（柱痕跡は全く確認できなかった。東より）



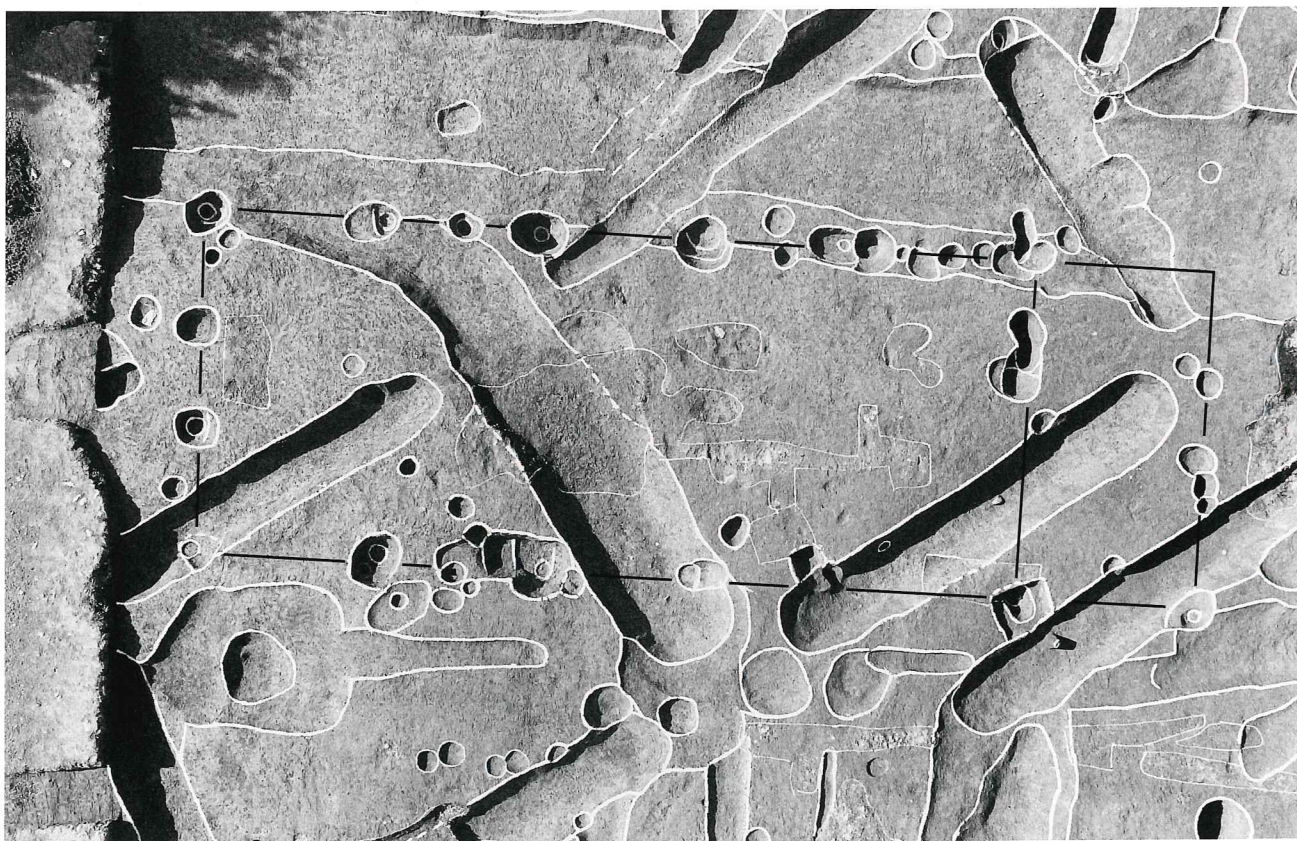
(1) SH1-P12土層（土層からは柱痕跡は全く確認できなかった。東より）



(2) SH1-P12（底に直径40cmの柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH2 (側柱式の大型掘立柱建物であるが、柱穴の規模は小さい。南より)



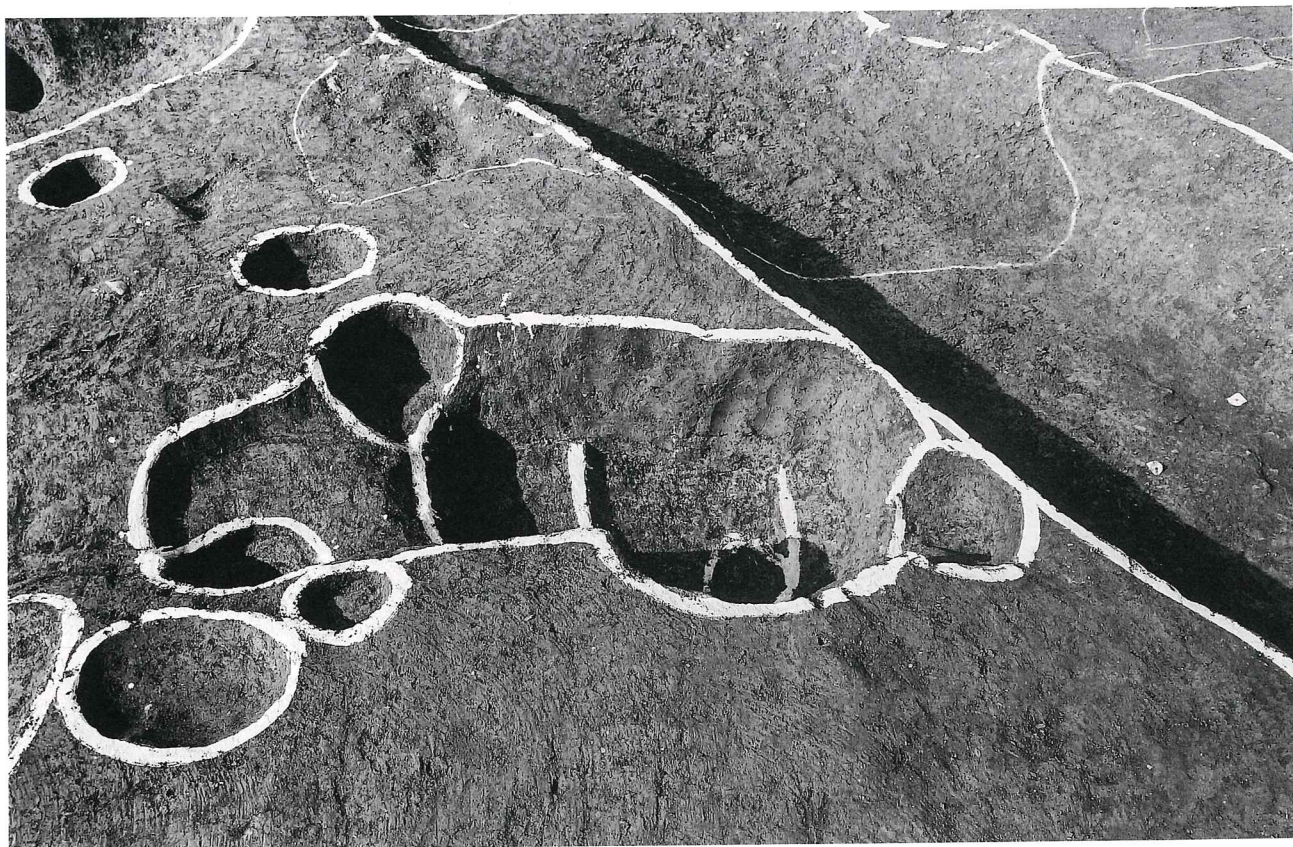
(2) SH2 (2回程度の立替がありそうである。右が北方向である。真上より)



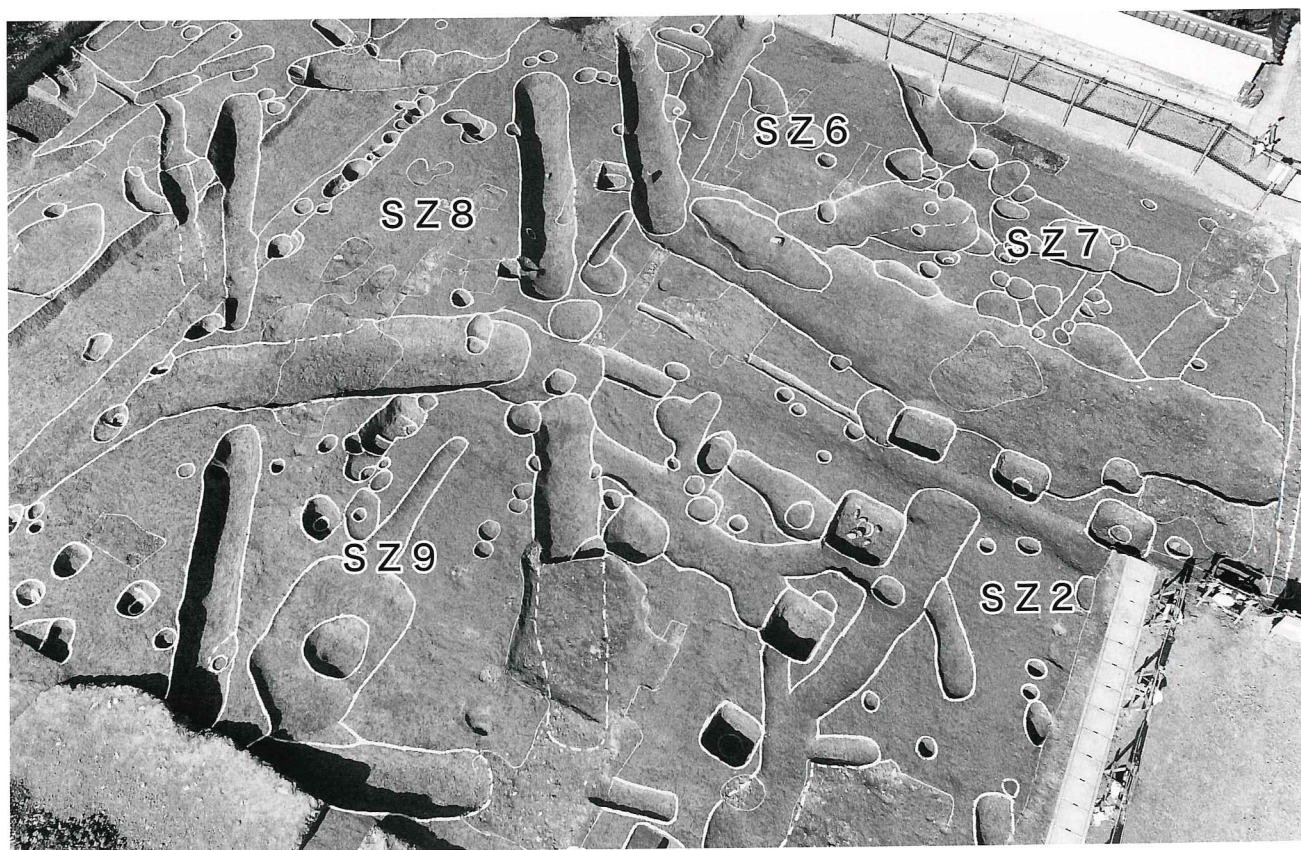
(1) SH2 (右手のSD7を一部埋立て建られている。南より)



(2) SH2 (柱間がまちまちな建物である。北より)

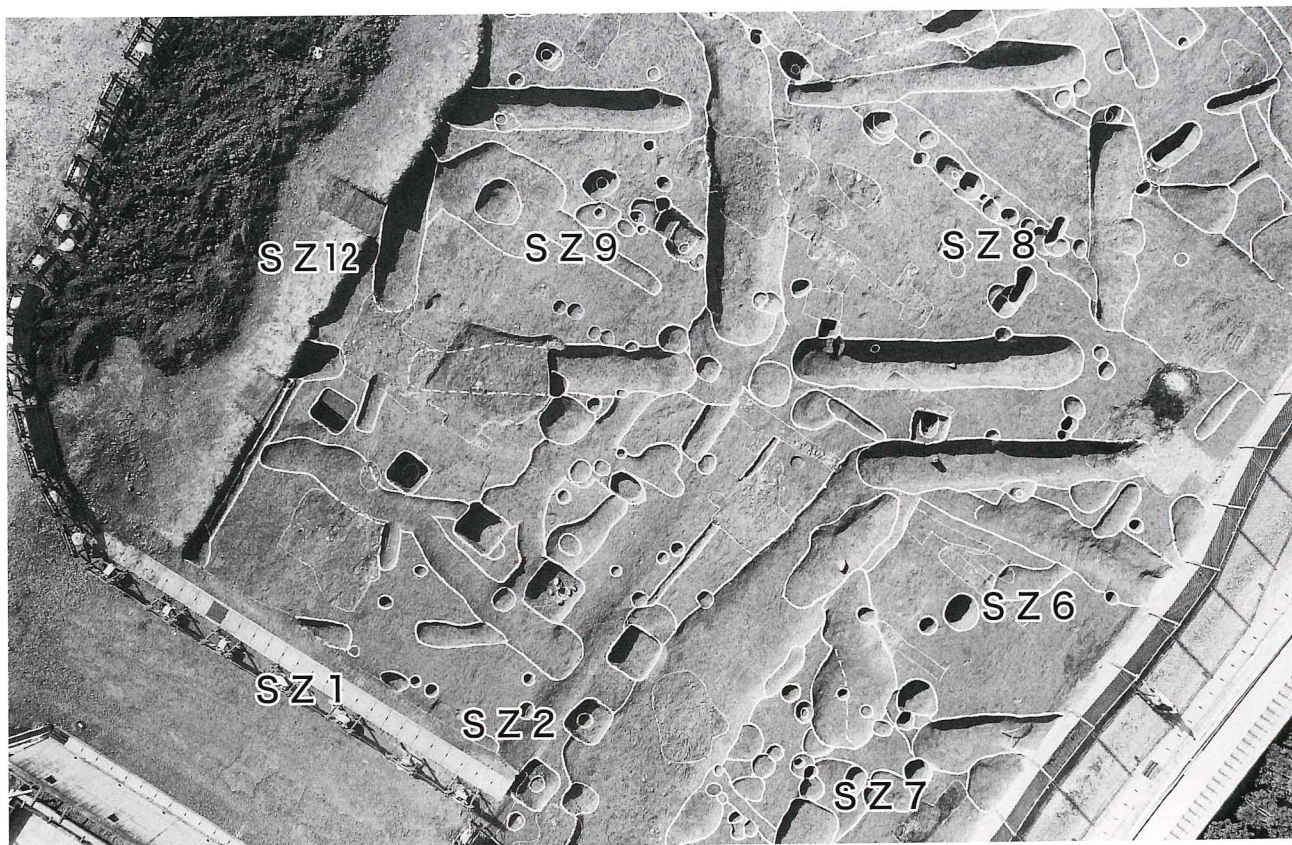


(1) SH2-P16 (複数の柱穴が切合があり、建替が考えられる建物である。東より)



(2) SZ6~9

(SZ2・6・8・9は弥生中期、SZ7は弥生後期の方形周溝墓である。上が北西方向である。真上より)

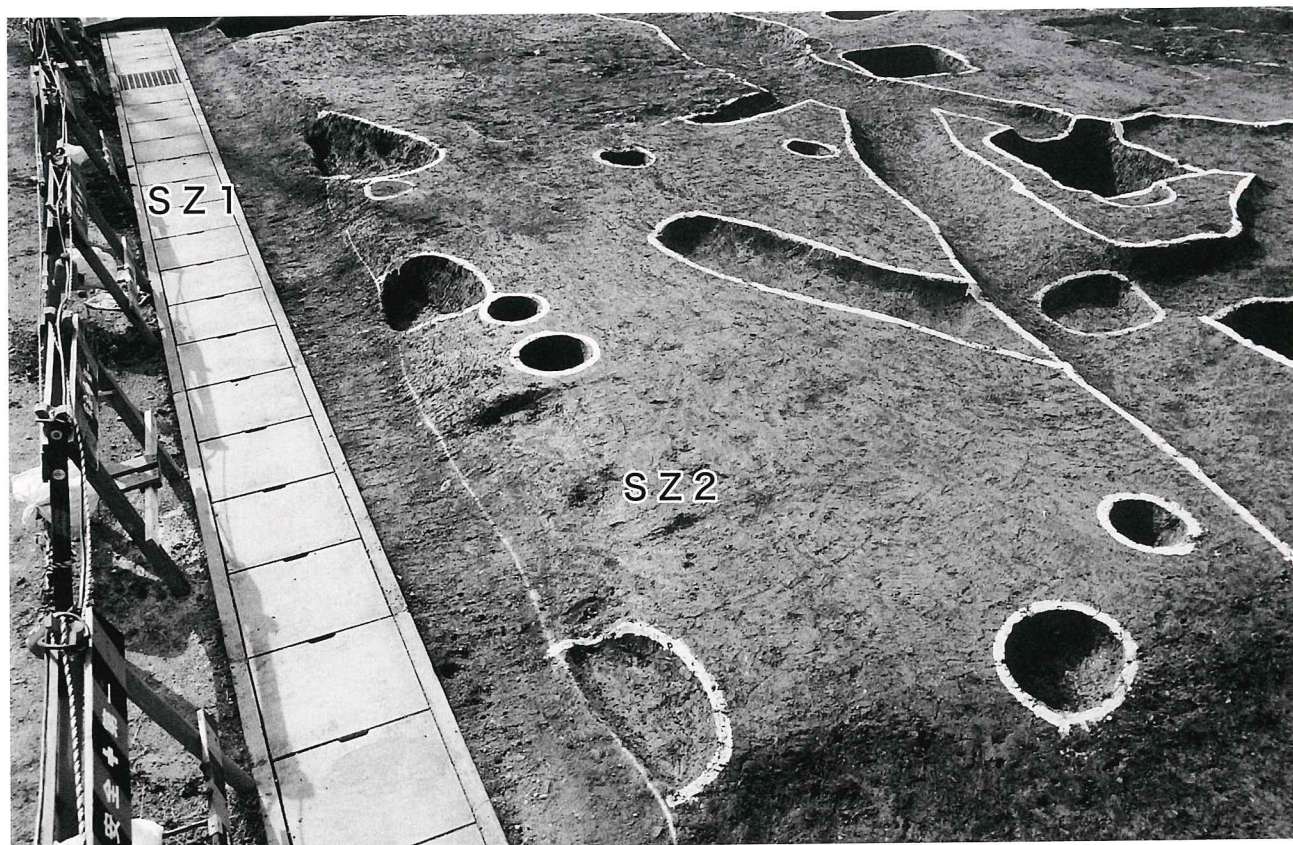


(1) SZ1・2・6～9・12

(弥生中期のSZ8・9・12は溝を一部切合か再利用して重列に配置されている。
SZ1・2は小型方形周溝墓である。上が南西方向である。真上より)



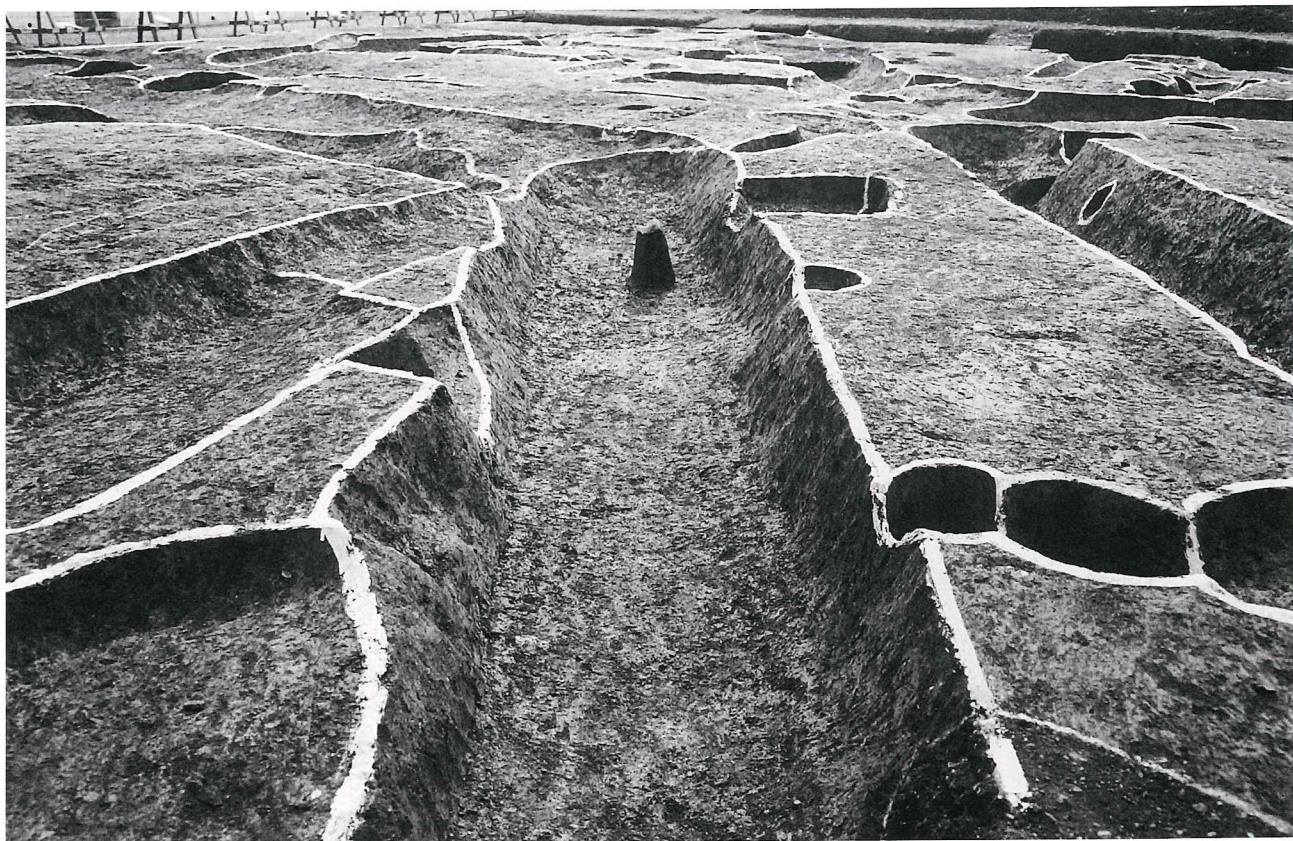
(2) SZ8・9 (弥生中期の四隅に陸橋のあるタイプの方形周溝墓で溝を連結する。北西より)



(1) SZ1・2 (弥生中期の小型方形周溝墓で溝は共有する。北東より)



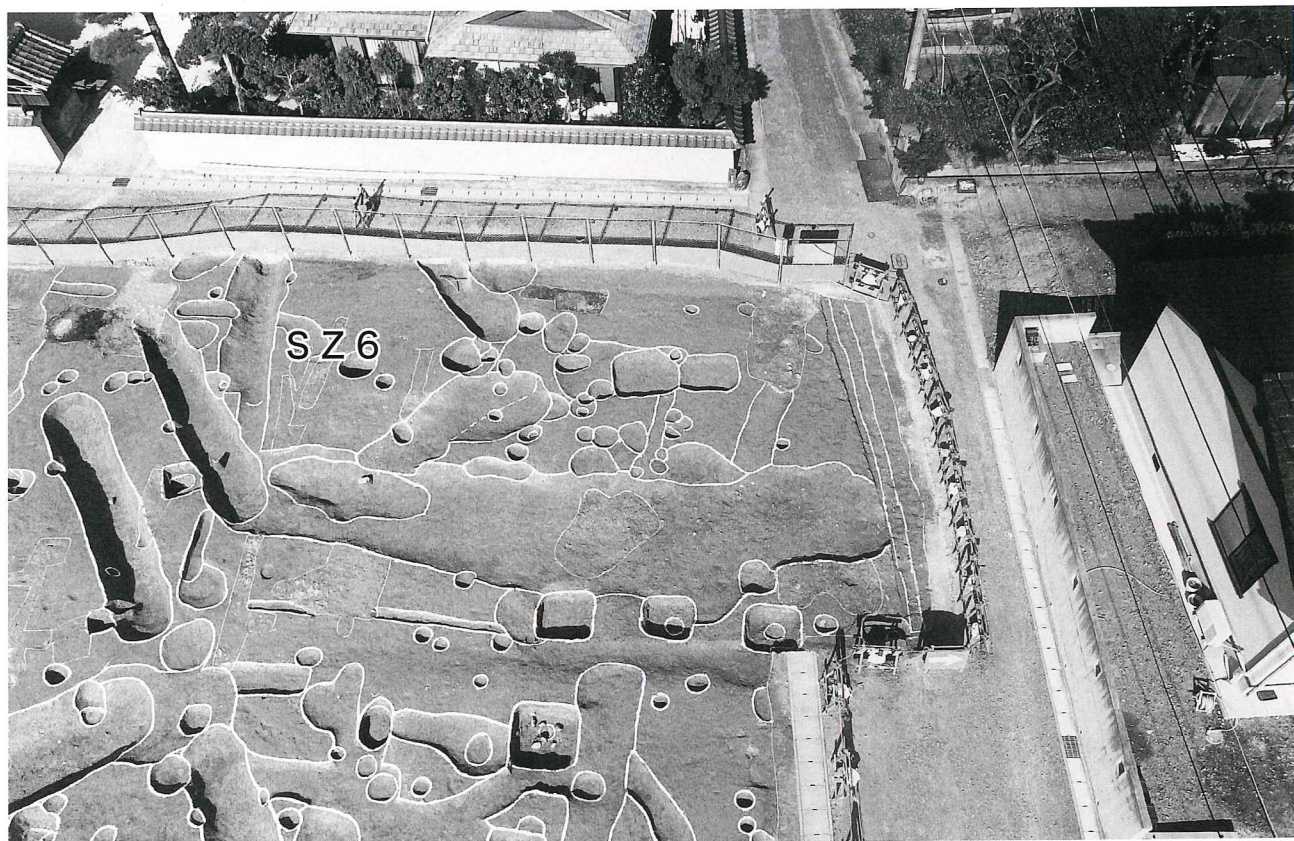
(2) SZ6 (弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。南東より)



(1) SZ 6西溝（南端に底よりかなり浮いた人頭大の礫が見られる。北西より）



(2) SZ 6西溝土層（土層からは自然堆積で盛土の流入は確認できない。北西より）



(1) SZ7 (弥生後期の大型方形周溝墓で、SZ6と重複する。南より)

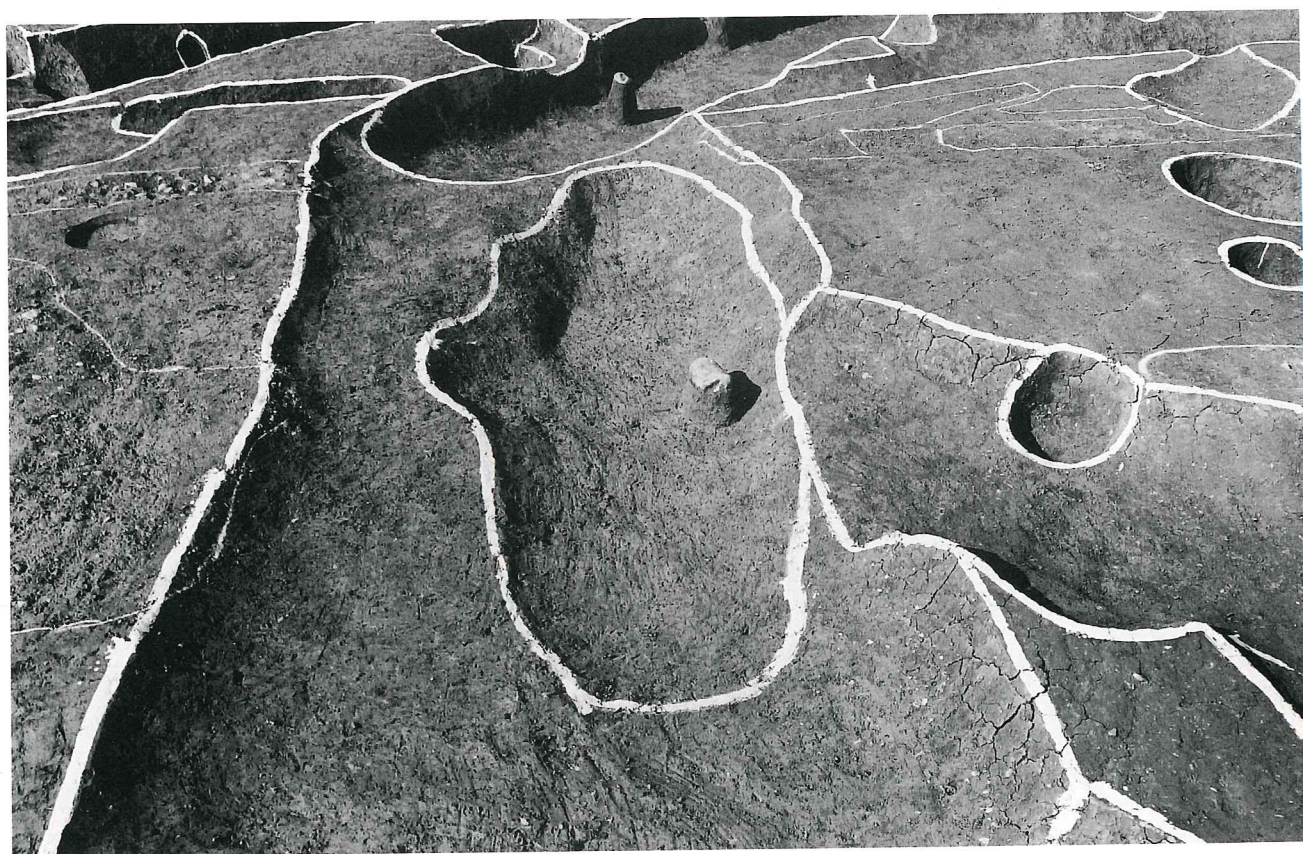


(2) SZ7

(南西コーナー部分は浅くなり、溝内土坑も見られる。上が北方向である。真上より)



(1) S Z 7 南西コーナー部分
(コーナー部分は陸橋にはならないが浅くなり、溝内土坑も見られる。北より)



(2) S Z 7 溝内土坑 (大型の土坑であるいは周溝の再掘削の痕跡かも知れない。東より)



(1) S Z 8 (弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。東より)



(2) S Z 8南溝土層
(土層の切合から見るとS Z 8のほうが新しい。壺形土器1点が
破砕された状態で底近くから出土した。東より)



(1) S Z 8 東溝土層（土層からは自然堆積で盛土の流入は確認できない。北西より）



(2) S Z 8 北溝出土土器（上半分が欠損する壺形土器が底近くから出土した。北より）



(1) S Z 8 南溝出土土器（胴部が破碎された壺形土器が底近くから出土した。東より）



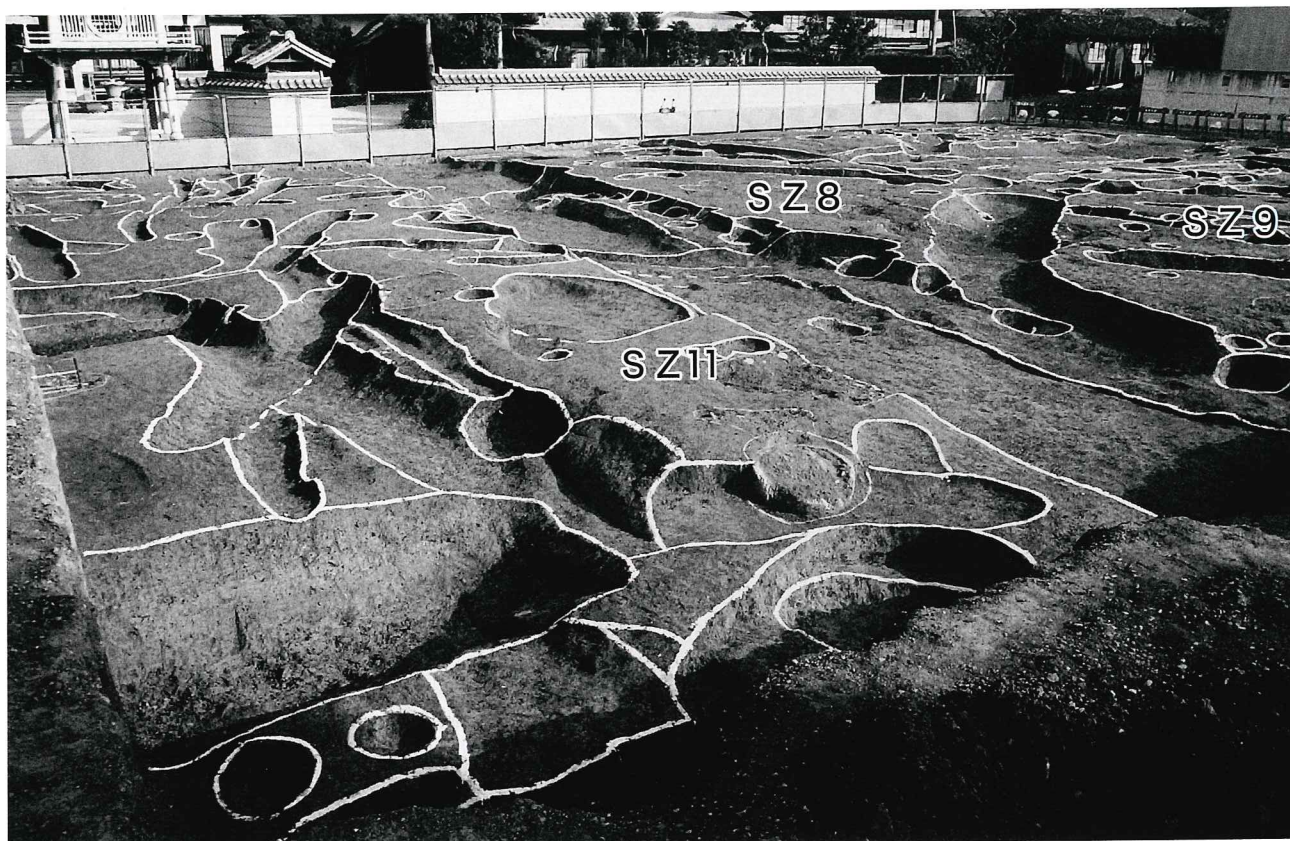
(2) S Z 9（弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。東より）



(1) S Z 9 西溝土層 (土層からは自然堆積で盛土の流入は見られない。北西より)



(2) S Z 9 南溝土層
(S Z 12と共有する溝である。土層からは切合関係は認められない。東より)



(1) SZ11

(弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。SZ8と隣接する。南西より)



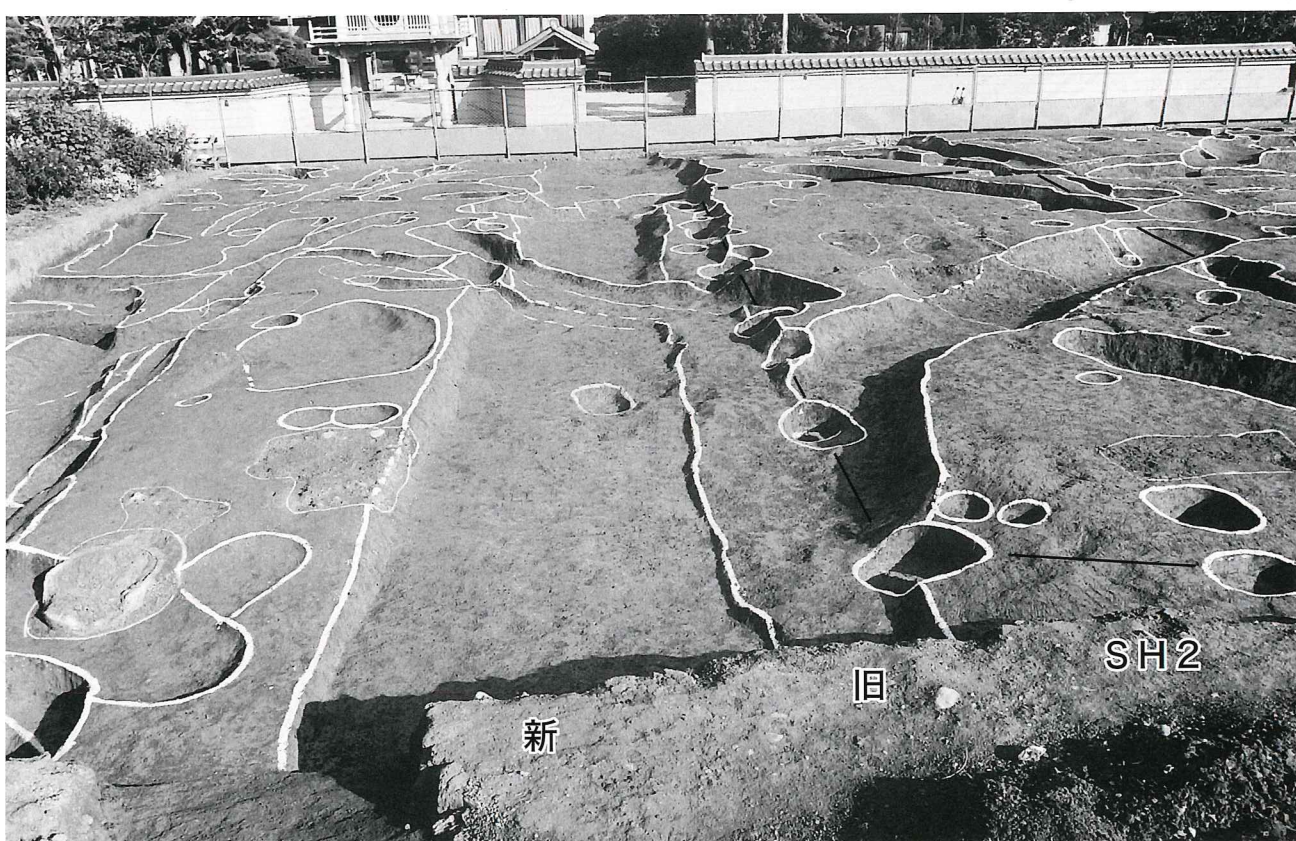
(2) SZ10

(弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。近世の遺構と切合うため残存状況が良くない。南より)



(1) S Z12

(弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓で、S Z 9と溝を共有している。北より)



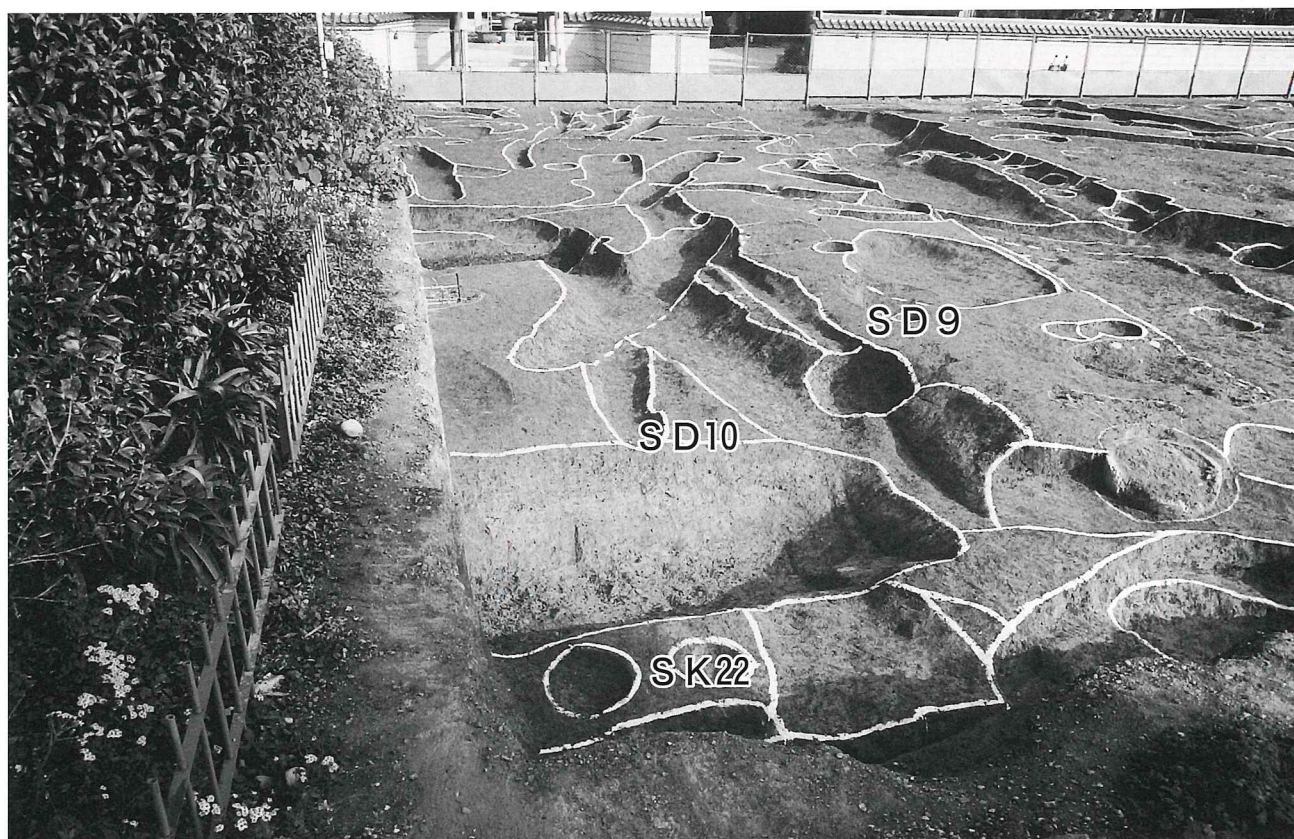
(2) S D7

(奈良時代の郡衙正倉院の西辺を区画する大溝である。SH2により一部が埋立られたため西側に拡張したようである。南より)



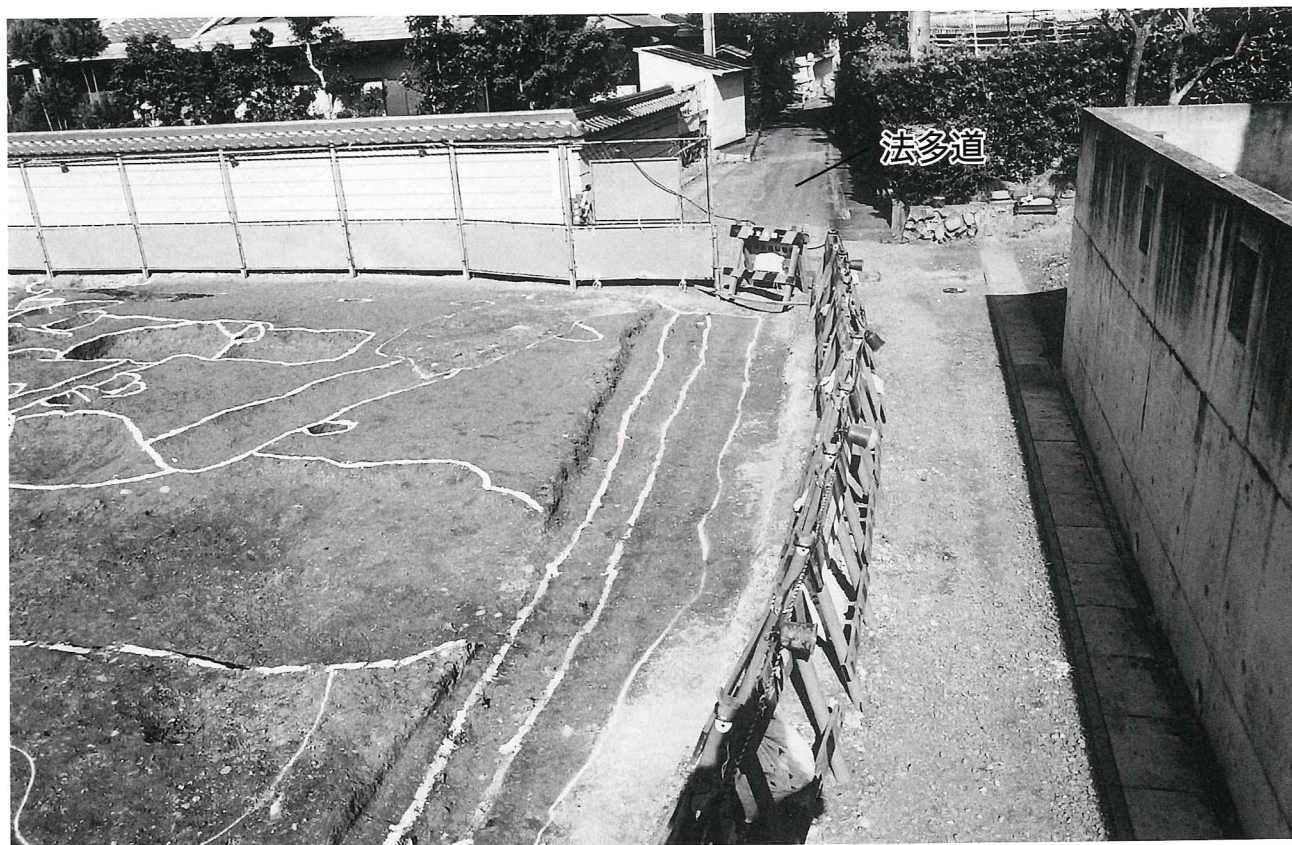
(1) SD7土層

(土層からは左側が埋立られた様子が確認できる。底は平らで水が流れた痕跡はなく土層も水平に自然堆積したことを示している。北より)

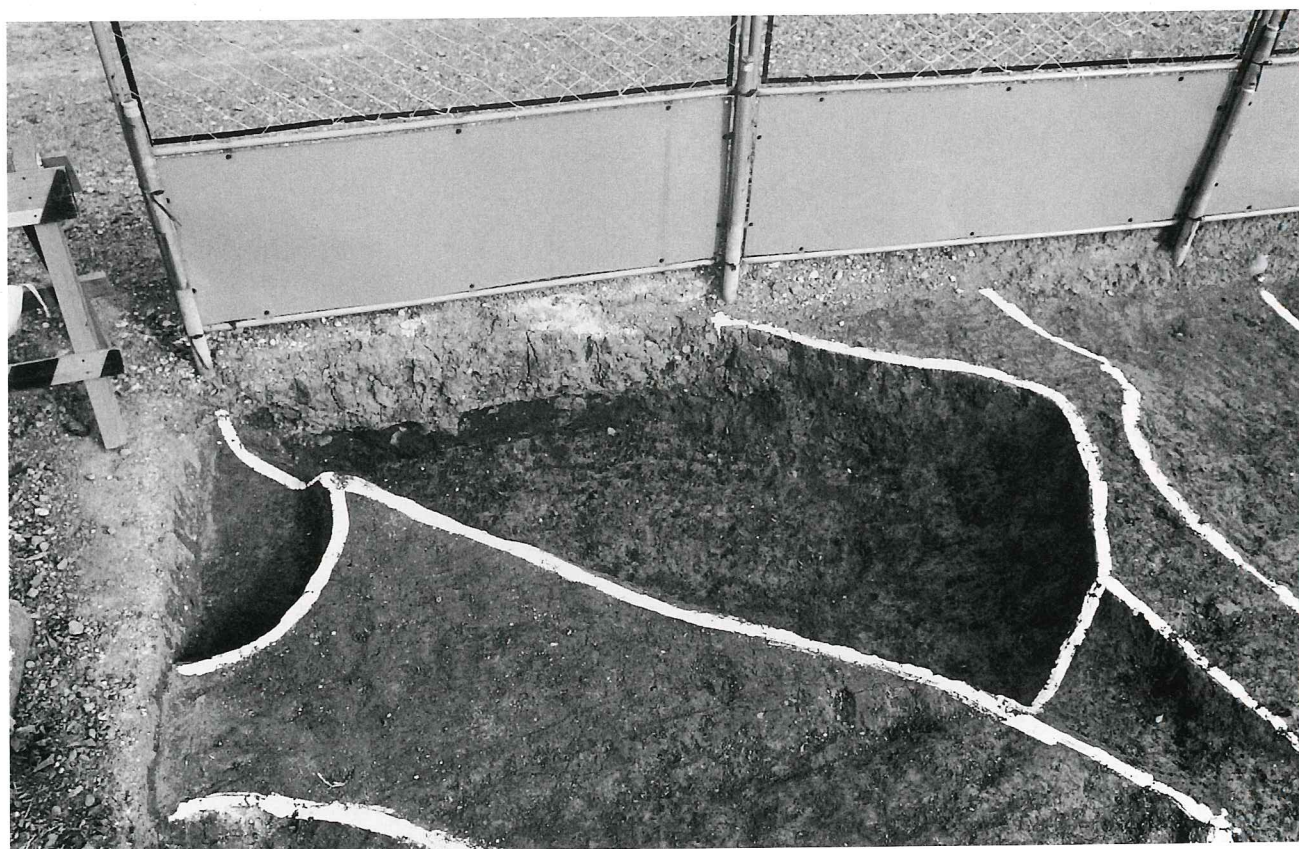


(2) 調査区西端近世遺構群

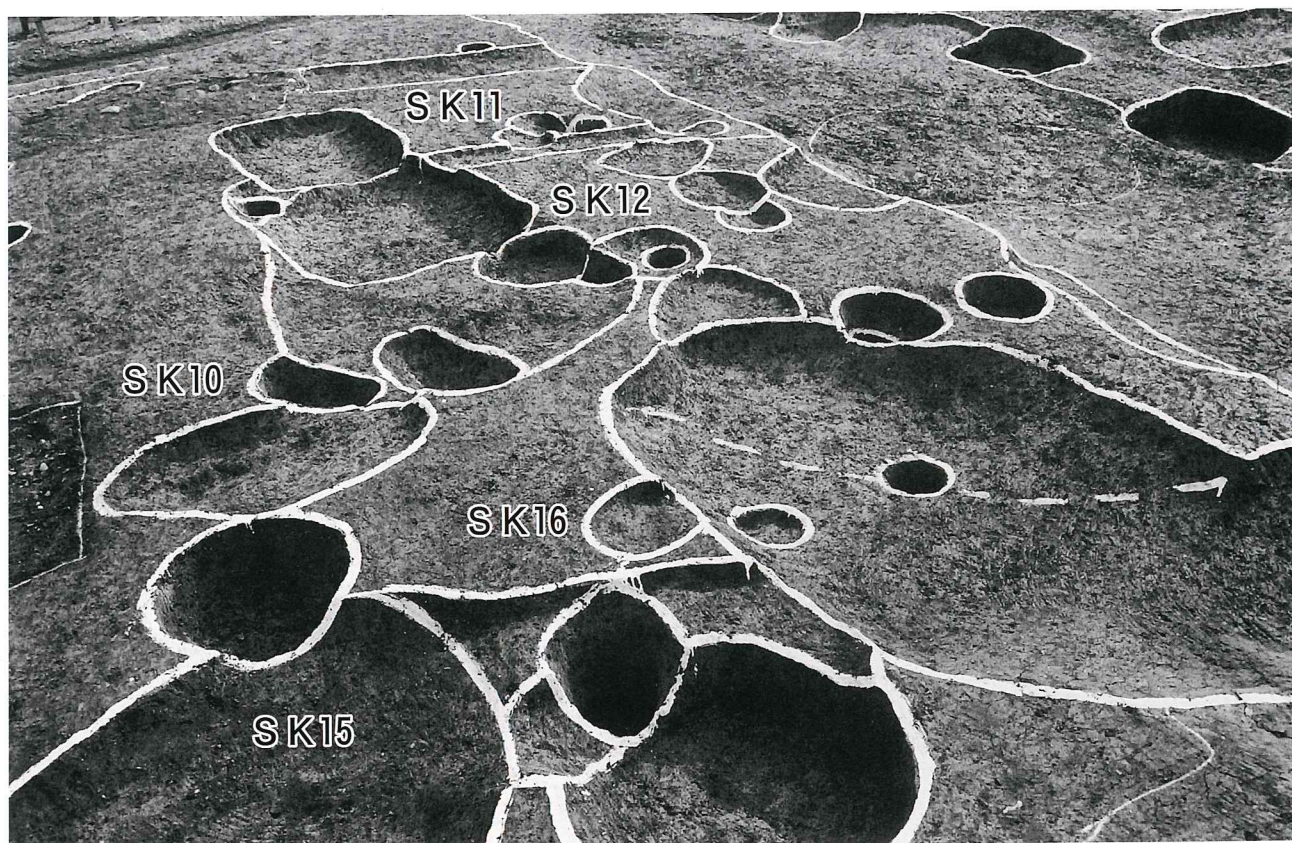
(近世末期の排水や溜水用と思われる区画溝や大型土坑が確認された。南より)



(1) 法多道側溝（近代の側溝である。近世段階の溝は確認できなかった。南より）



(2) S K 6（弥生の長方形の大型土坑である。方形周溝墓関連の遺構か。南より）



(1) 調査区北東端の近世末期土坑群（方形の土坑や溜水用の円形土坑が集中する。西より）



(2) SK22（近世末期の溜水用の大型方形土坑である。南より）



(1) SD11 (土取のための土坑が複数見られる。東より)



(2) SP3 (近世の柄鏡が出土した。東より)



(1) SP 3出土柄鏡（地鎮のためのものか。東より）



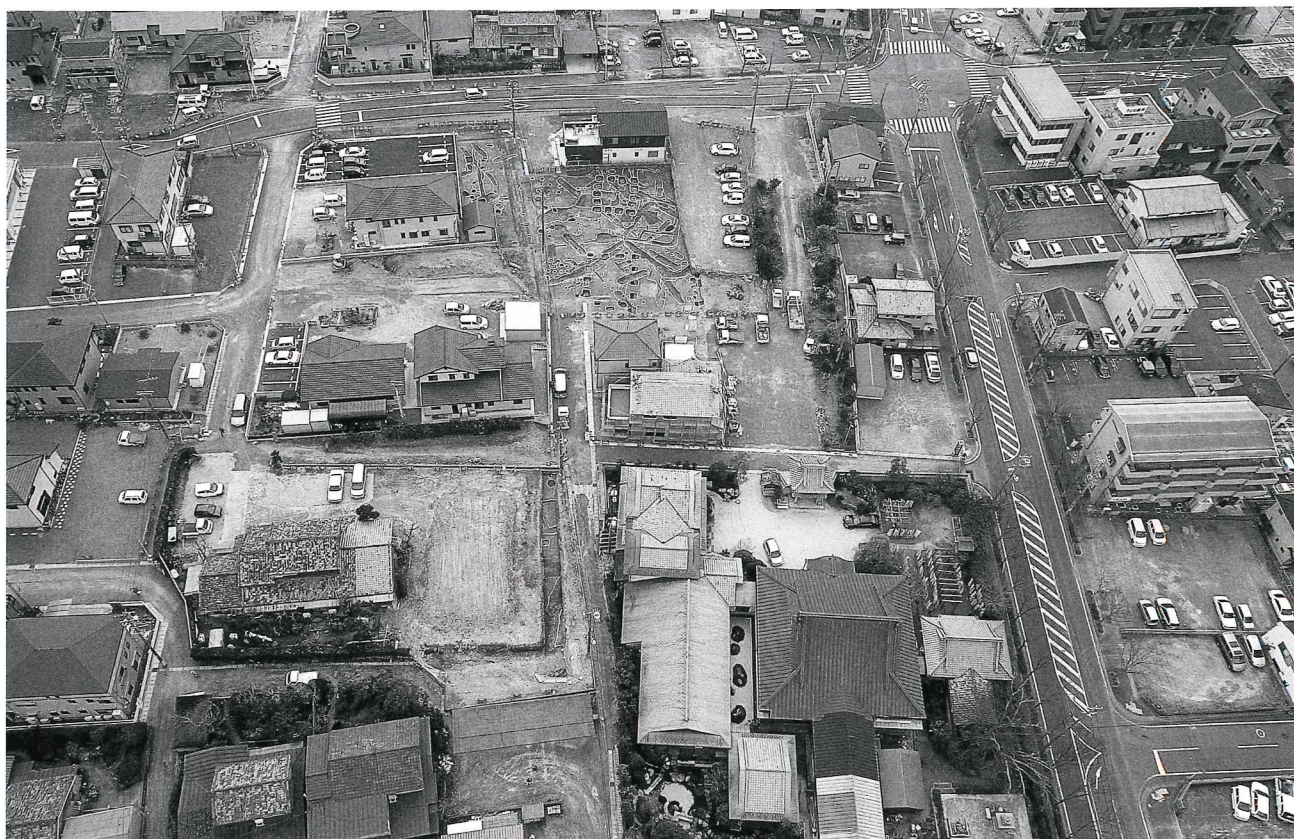
(2) 重機による表土掘削作業風景
(包含層が存在しなかったため、表土を遺構確認面まで掘削することができた。)



(1) 人力による作業風景 (SH1の調査風景で、柱穴の大きさが良く分かる)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量風景



(1) 第46次発掘調査区南半空中写真遠景
(手前が北区、奥が南半調査区で右下が慈眼寺である。北より)



(2) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(弥生中～後期の方形周溝墓や奈良時代の大型掘立柱建物が重複して発見された。北より)



(1) 第46次発掘調査区南半空中写真全景
(遺構面の保存が良く多数の遺構が検出された。東より)



(2) SH1・3
(直列に配置されている大型掘立柱建物である。上が西方向である。真上より)

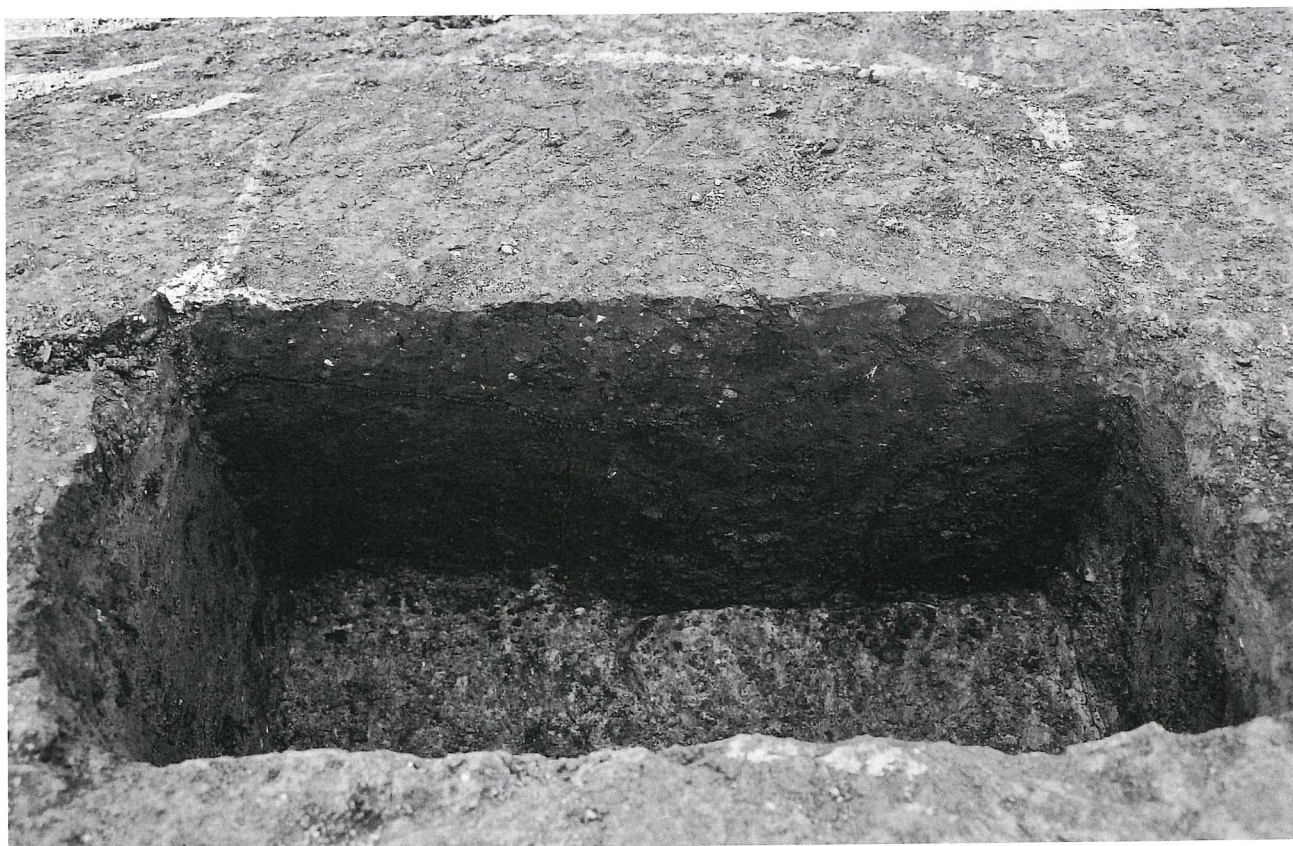


(1) SH1 (3間×9間の長殿風の側柱式の大型掘立柱建物である。南より)



(2) SH1

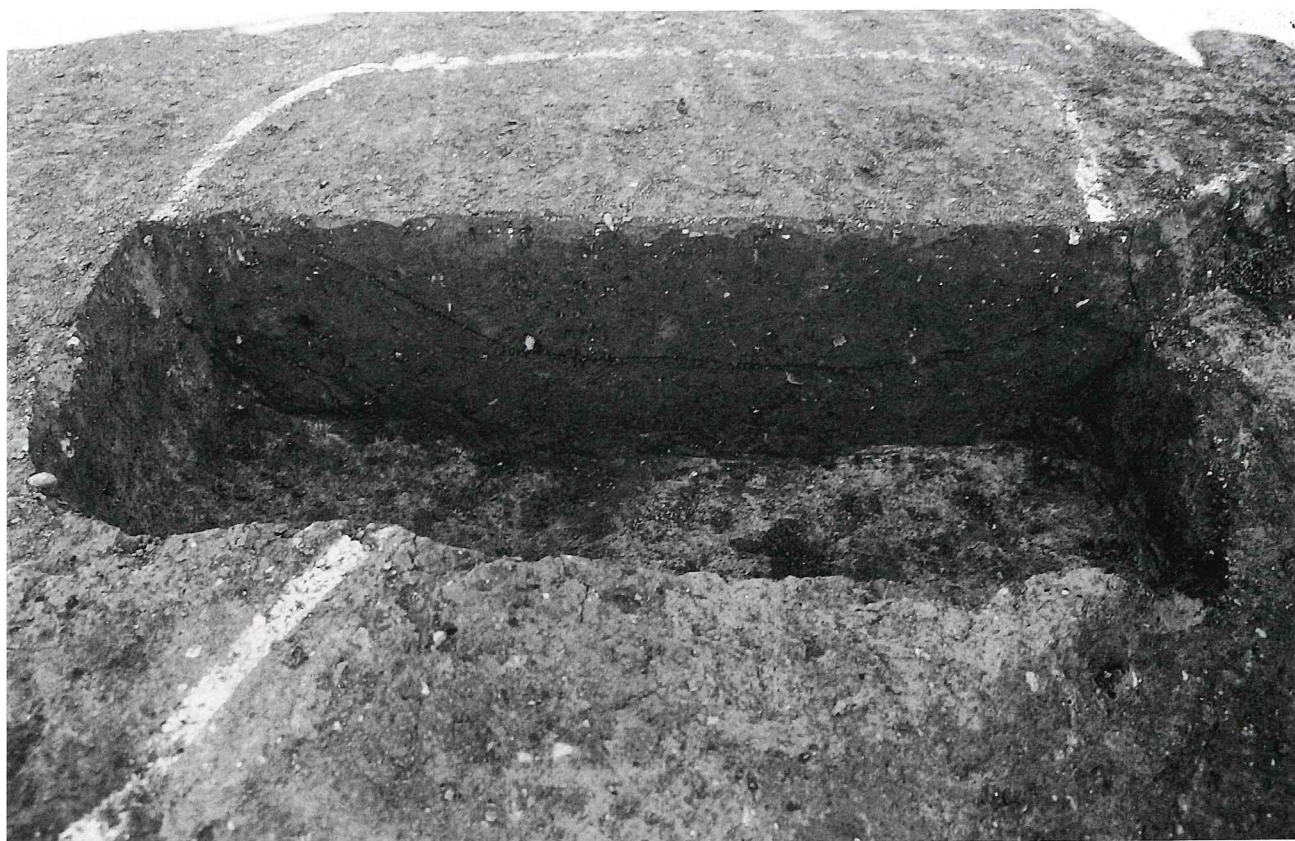
(右側が北半調査区でこの建物の半分が検出された。上が西方向である。真上より)



(1) SH1-P15土層（土層からは柱痕跡は確認できないが、抜取痕跡は見られた。東より）



(2) SH1-P17土層（土層から柱痕跡が確認できた。版築状になっている。東より）



(1) SH1-P19土層（土層からは柱痕跡は確認できなかった。南より）



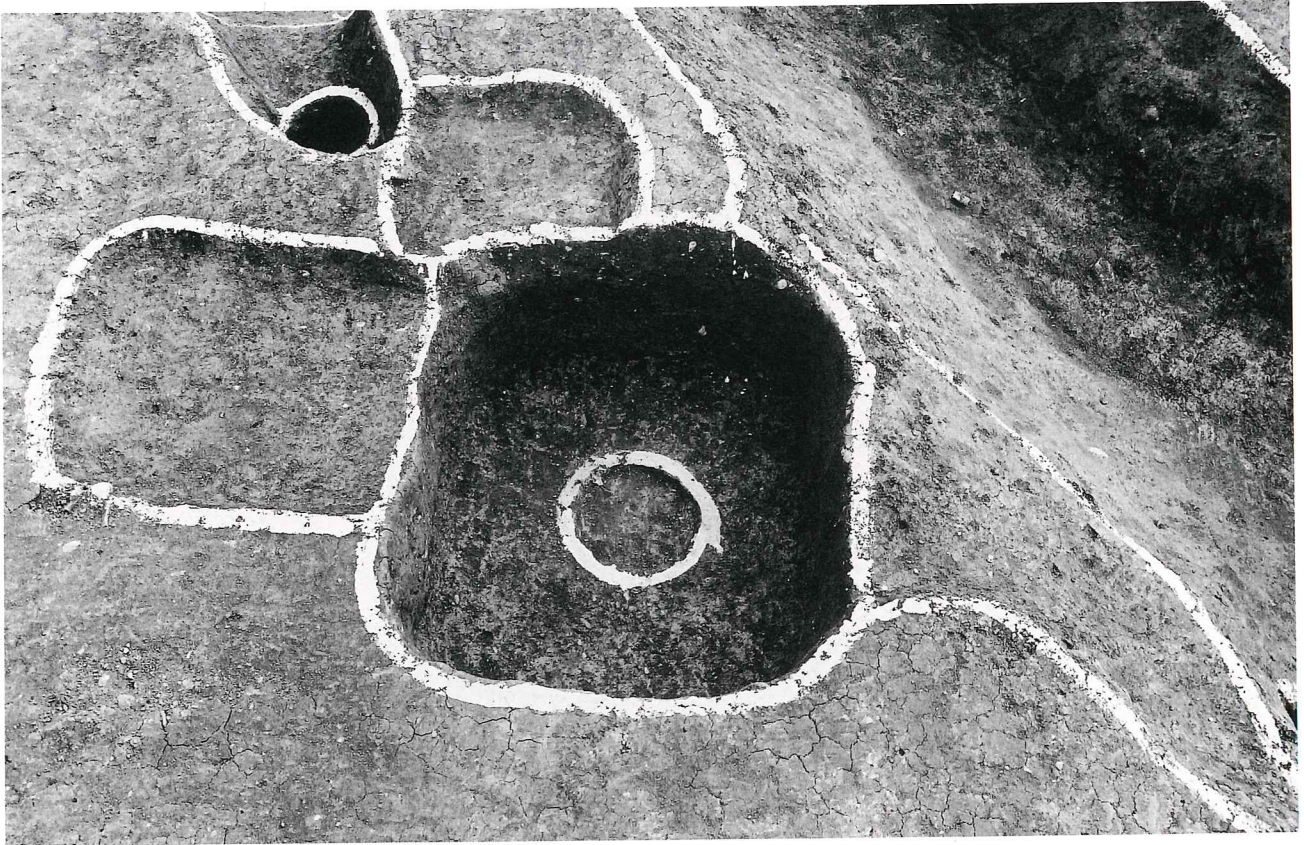
(2) SH1-P19（底に直径40cmの柱痕跡が確認できた。北より）



(1) SH1-P21土層
(土層からは柱痕跡は確認できなかったが、抜取痕は見られた。東より)



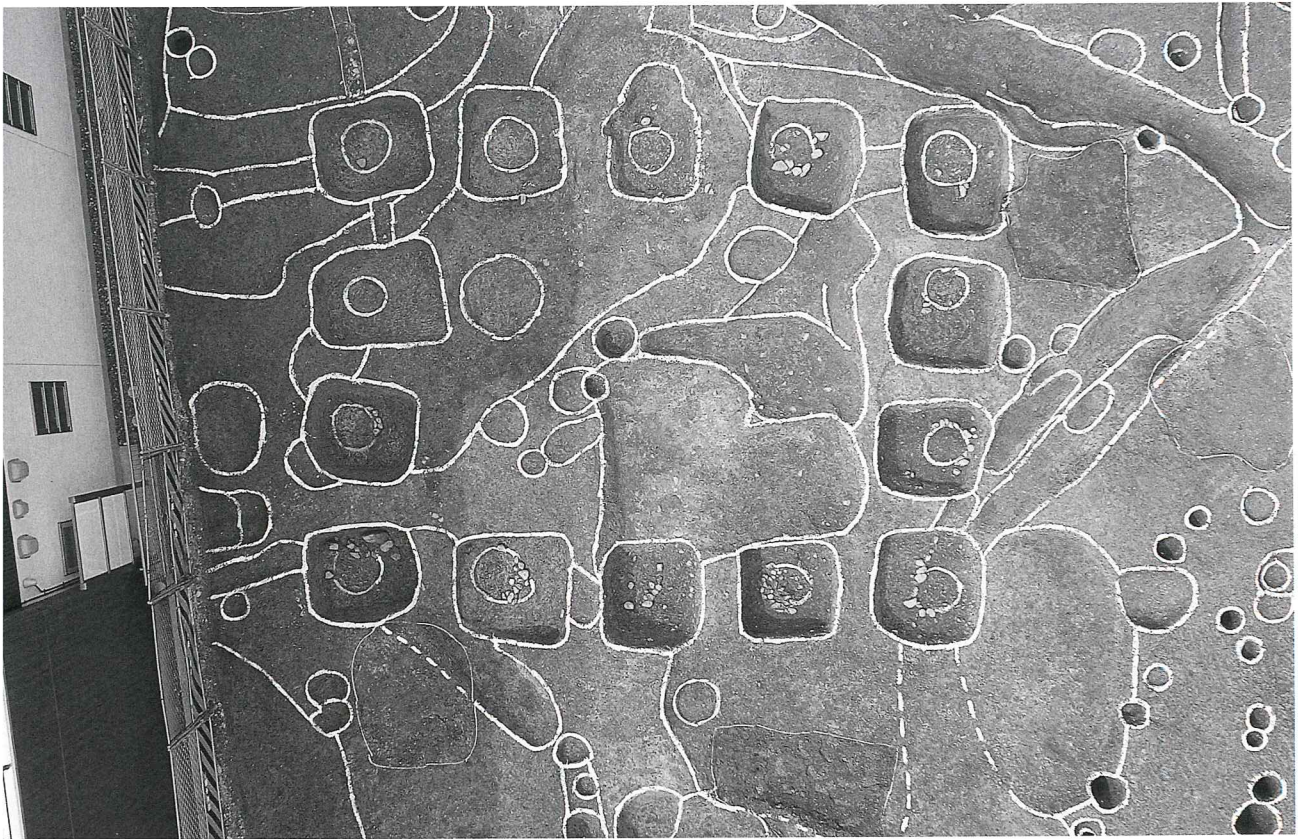
(2) SH1-P23土層 (土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より)



(1) SH1-P23 (底に直径40cmの柱痕跡が確認できた。西より)



(2) SH3 (3間×4間の側柱式の大型掘立柱建物である。北より)



(1) SH3 (柱間寸法からは高床建物の可能性が考えられる。上が西方向である。真上より)



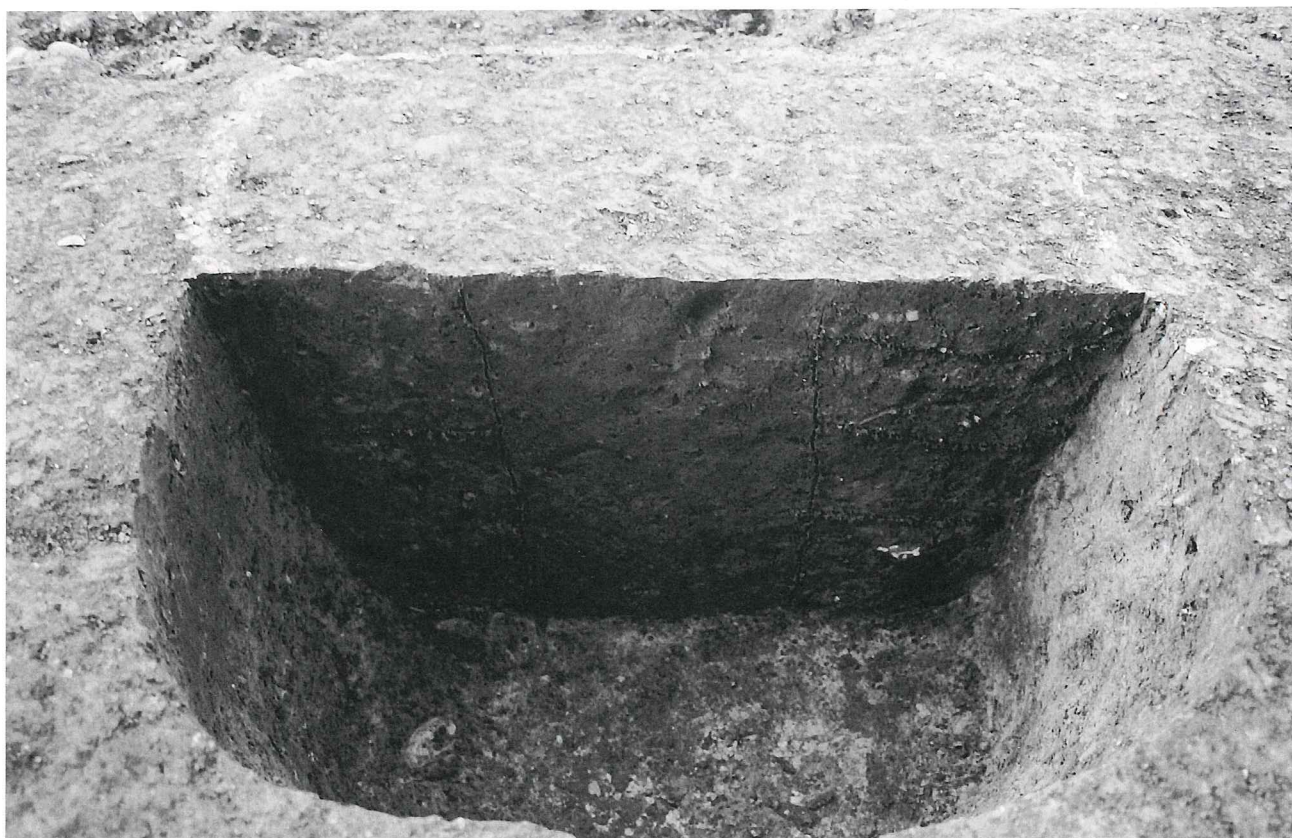
(2) SH3-P2土層
(土層から柱痕跡が確認できなかったが、抜取痕は見られた。一部は版築状になっている。西より)



(1) SH3-P5土層
(土層から直径60cmの柱痕跡が確認できた。版築状になっている。西より)



(2) SH3-P5 (底に直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より)



(1) SH3-P7土層
(土層から直径60cmの柱痕跡が確認できた。版築状になっている。南より)



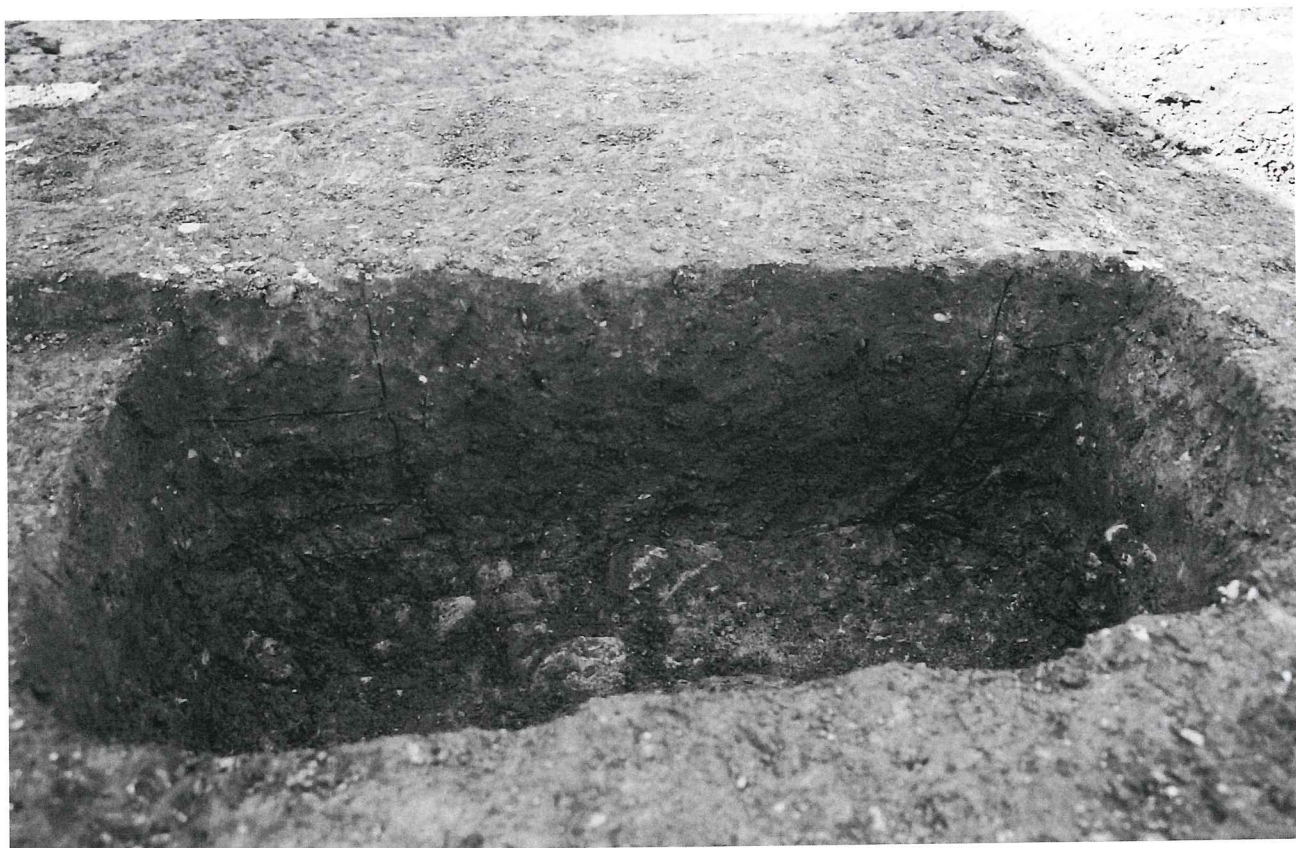
(2) SH3-P7 (底に直径50cmの柱痕跡と根巻石が確認できた。南より)



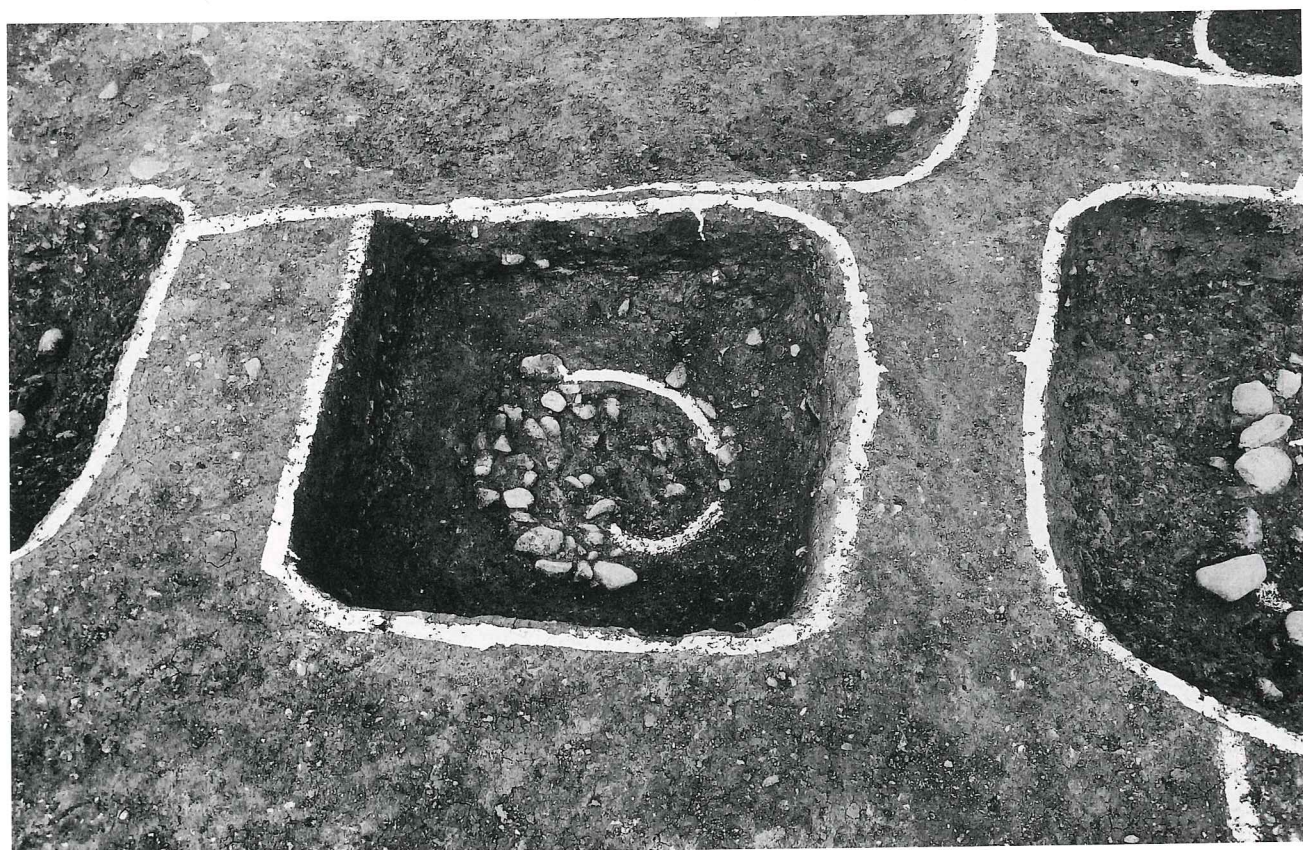
(1) SH3-P9土層
(土層から直径60cmの柱痕跡が確認できた。版築状になっている。東より)



(2) SH3-P9 (底に直径50cmの柱痕跡と根巻石が確認できた。東より)



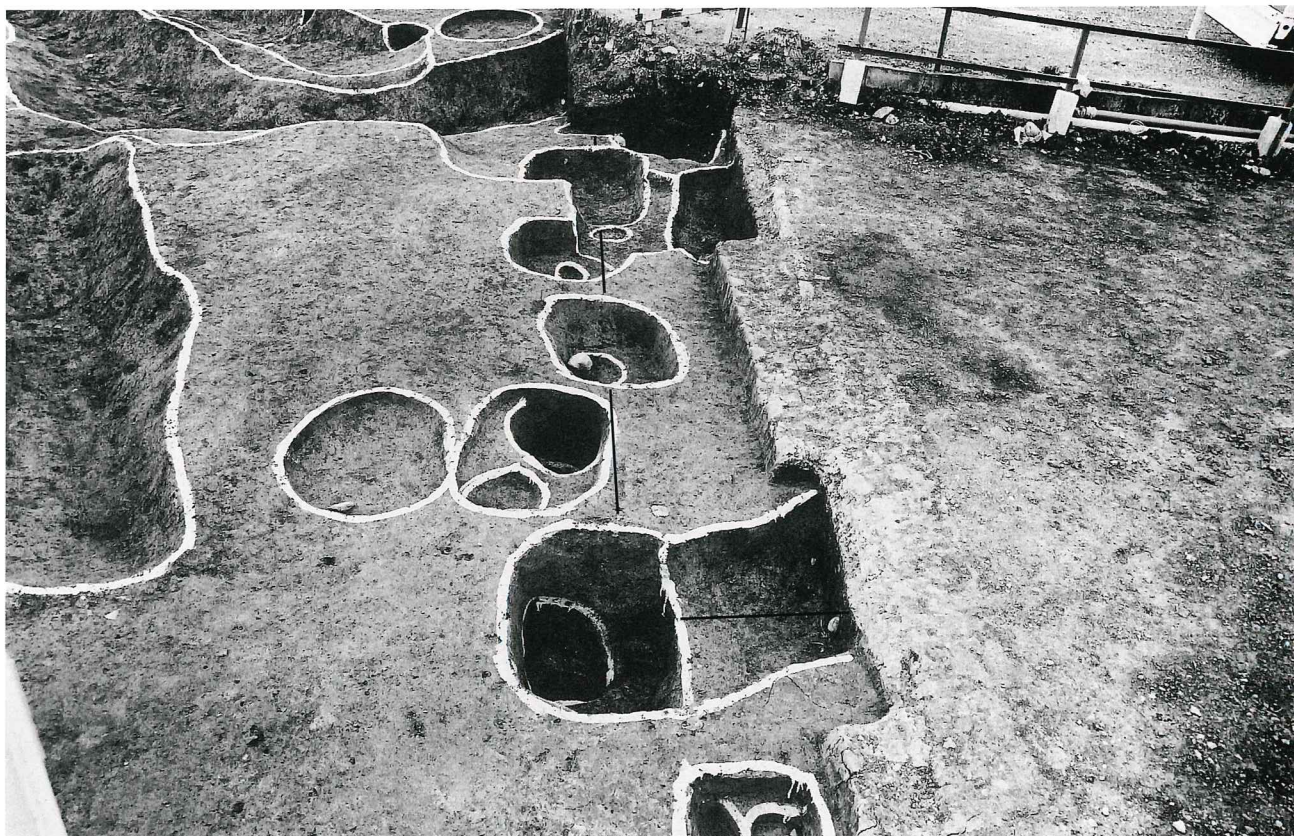
(1) SH3-P11土層
(土層から柱痕跡は確認できなかったが、抜取痕は見られた。版築状になっている。東より)



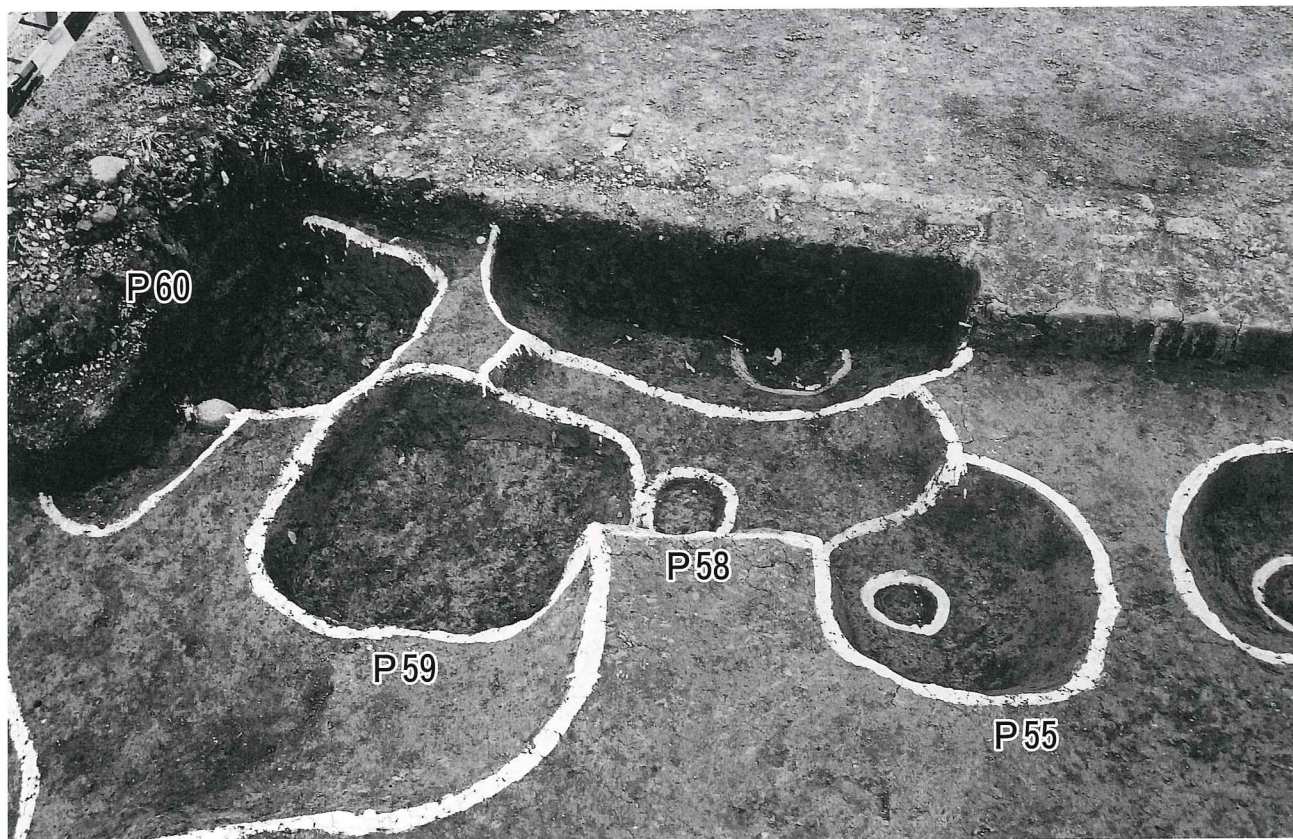
(2) SH3-P11 (底に直径50cmの柱痕跡と根巻石が確認できた。東より)



(1) SH3-P13土層
(土層から直径60cmの柱痕跡が確認できた。版築状になっている。南より)



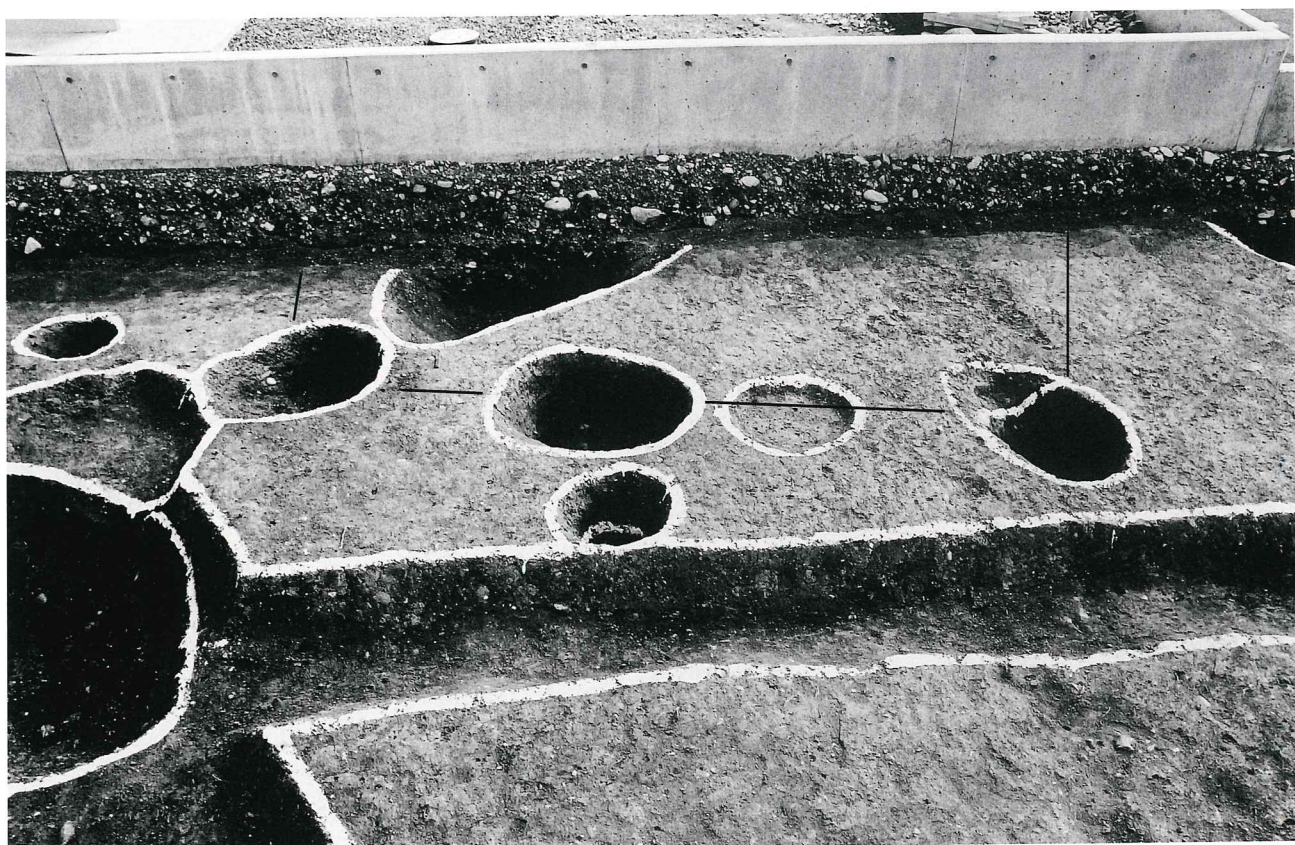
(2) SH4
(柱の規模の小さな長屋風大型掘立柱建物の一部と思われる。
北半区のSH2と主軸方向が一致すると見られる。北より)



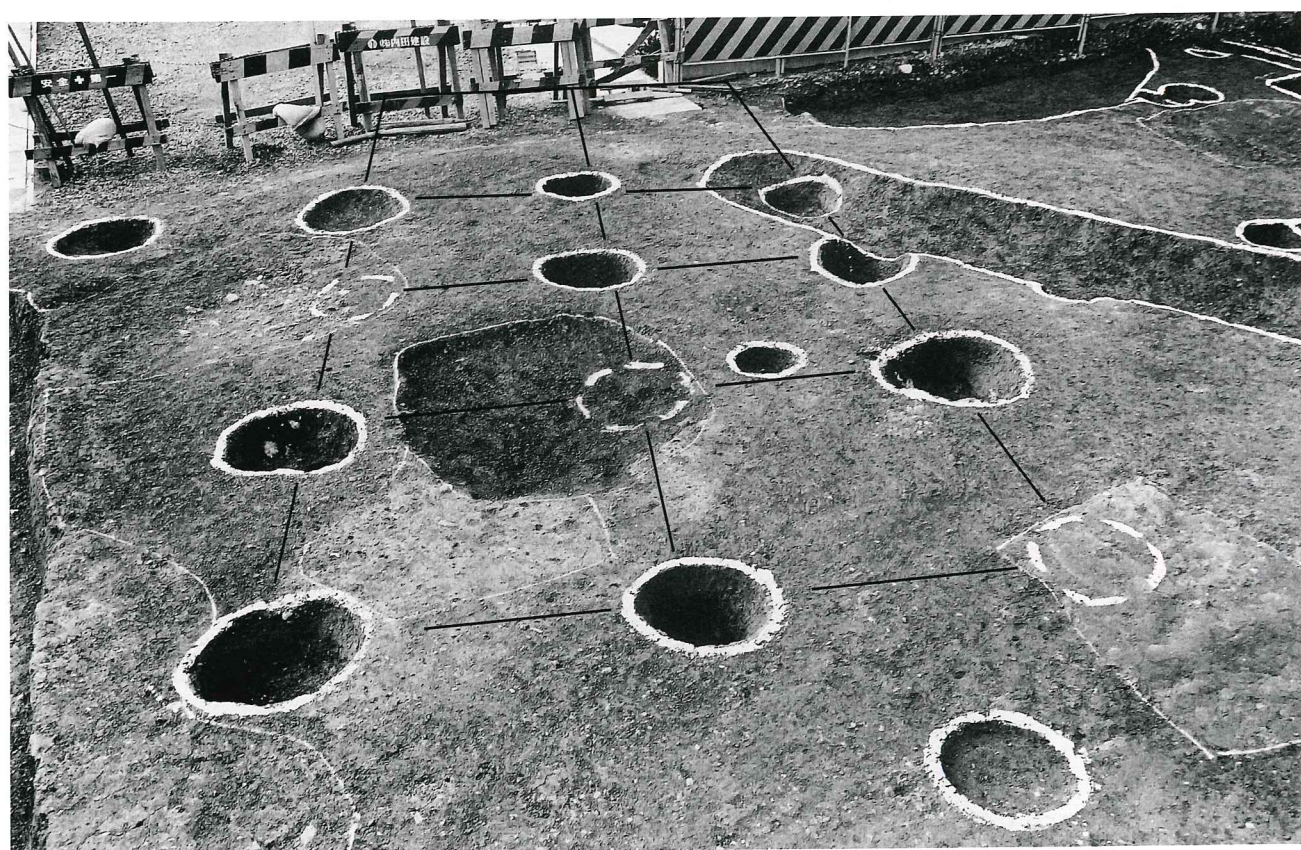
(1) SH4 - P55・58~60
(柱穴が多数切合うため2回以上の建替があると思われる。東より)



(2) SH4 - P54土層
(土層から直径30cmの柱痕跡が確認できた。乱雑に埋められている。東より)



(1) SH5 (主軸方向は奈良時代の建物と一致する。西より)



(2) SH9 (主軸方向は奈良時代の建物と一致する。北より)



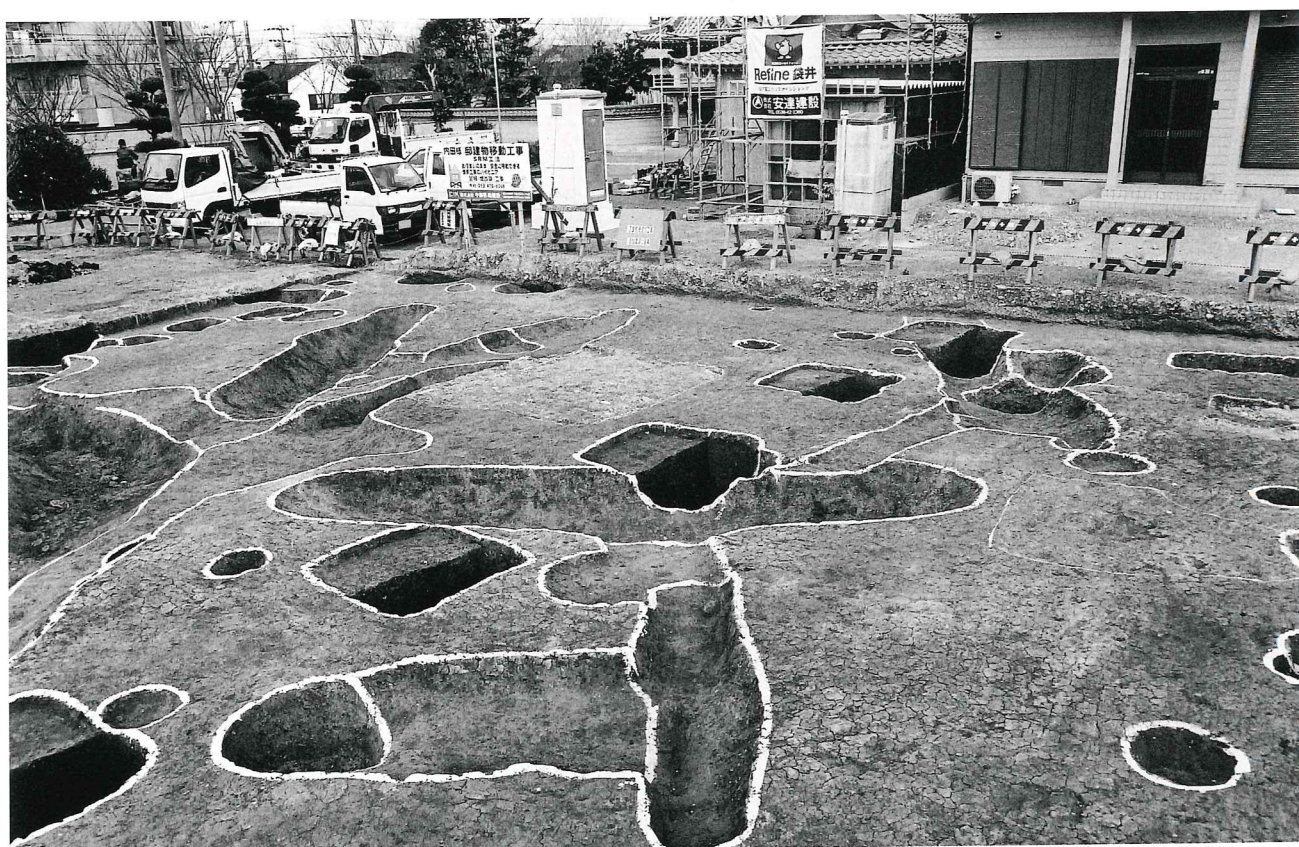
(1) SH9 (2間×4間の総柱の高床倉庫である。東より)



(2) SZ9 (四隅が浅くなるが連結した弥生後期の方形周溝墓である。東より)



(1) S Z 9 北溝出土土器（北東コーナー部分よりの出土でいずれも壺形土器である。北より）



(2) S Z 12（弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。南東より）



(1) S Z12 (右側が北半区でS Z 9と溝を共有している。上が南西方向である。真上より)



(2) S Z12南溝土層 (土層からは自然堆積で盛土の流入は確認できない。北東より)



(1) S Z12西溝土層（土層からは自然堆積で盛土の流入は確認できない。南東より）



(2) S Z13（四隅が浅くなるが連結した弥生後期の方形周溝墓である。北東より）



(1) S Z13 (南東より)



(2) S Z13 (上が北東方向である。真上より)



(1) S Z13南東コーナー部分
(陸橋とならないが浅くなる。S Z14南西コーナー部分と切合が、
新旧関係はS Z13のほうが新しい。北東より)



(2) S Z13東溝
(溝1が本来の溝で、その後溝2が再掘削され溝内埋葬が
確認されたか、別遺構になる可能性もある。北西より)



(1) S Z13東溝2土層（溝内埋葬の土坑の土層で、木棺の痕跡は見られない。南東より）



(2) S Z13東溝1土層（土層からは2回の再掘削が認められた。北西より）



(1) S Z13西溝土層（土層からは自然堆積を示している。南西より）



(2) S Z13南溝土層（土層からは自然堆積を示している。北西より）



(1) S Z13東溝出土土器（1～4の高坏や壺形土器である。南東より）



(2) S Z13東溝出土土器（2～4の土器で小型壺を含む。東より）



(1) S Z13南溝出土土器
(1～8の土器で完形率の高い壺形土器が主体である。南西より)



(2) S Z13南溝出土土器 (3～5の土器で小型壺を含む。北東より)



(1) S Z13南溝出土土器（4～7の土器で中型壺は破片となっている。北東より）

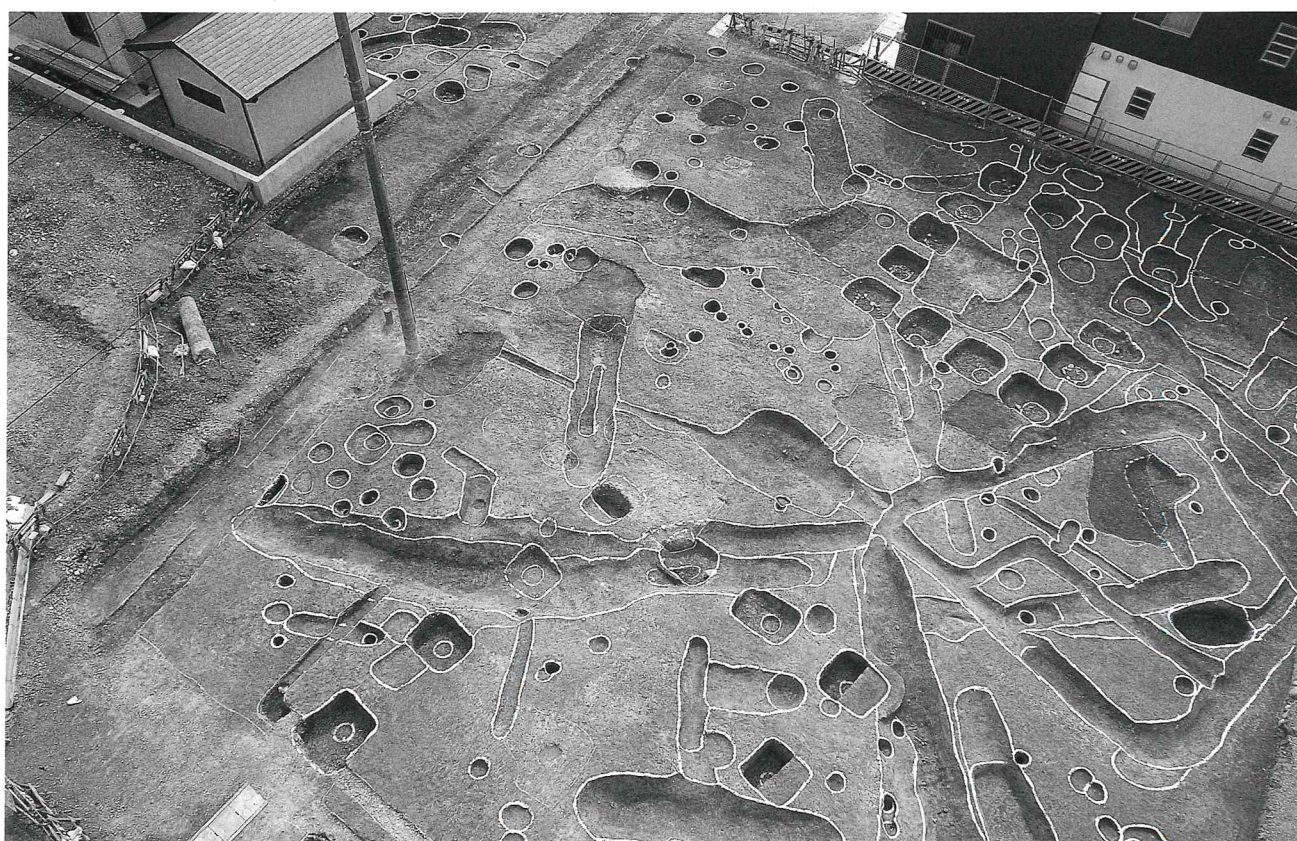


(2) S Z13南溝出土土器（8の高坏で坏部は欠損している。北東より）



(1) S Z14

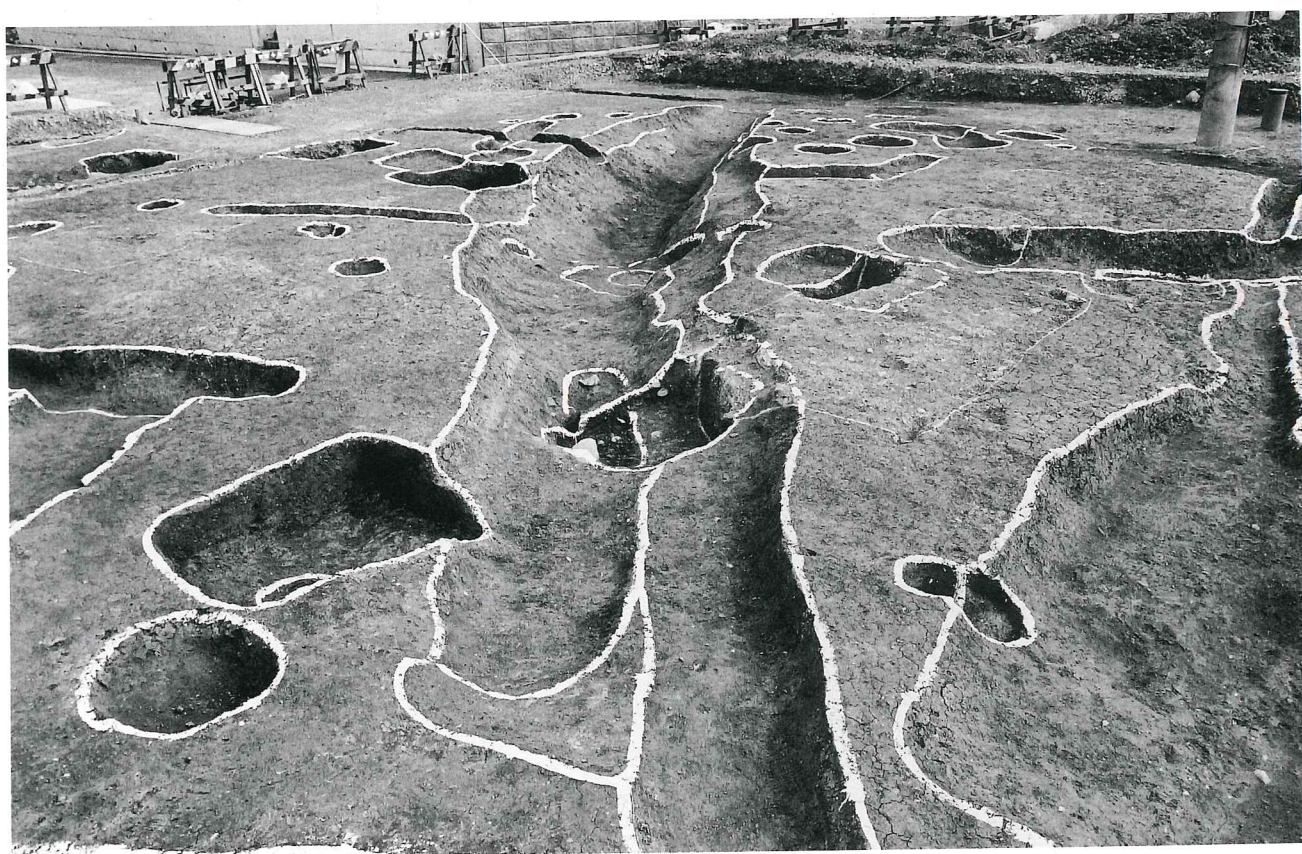
(四隅が浅くなるが連結した弥生後期の方形周溝墓である。2基連結したものの可能性がある。西より)



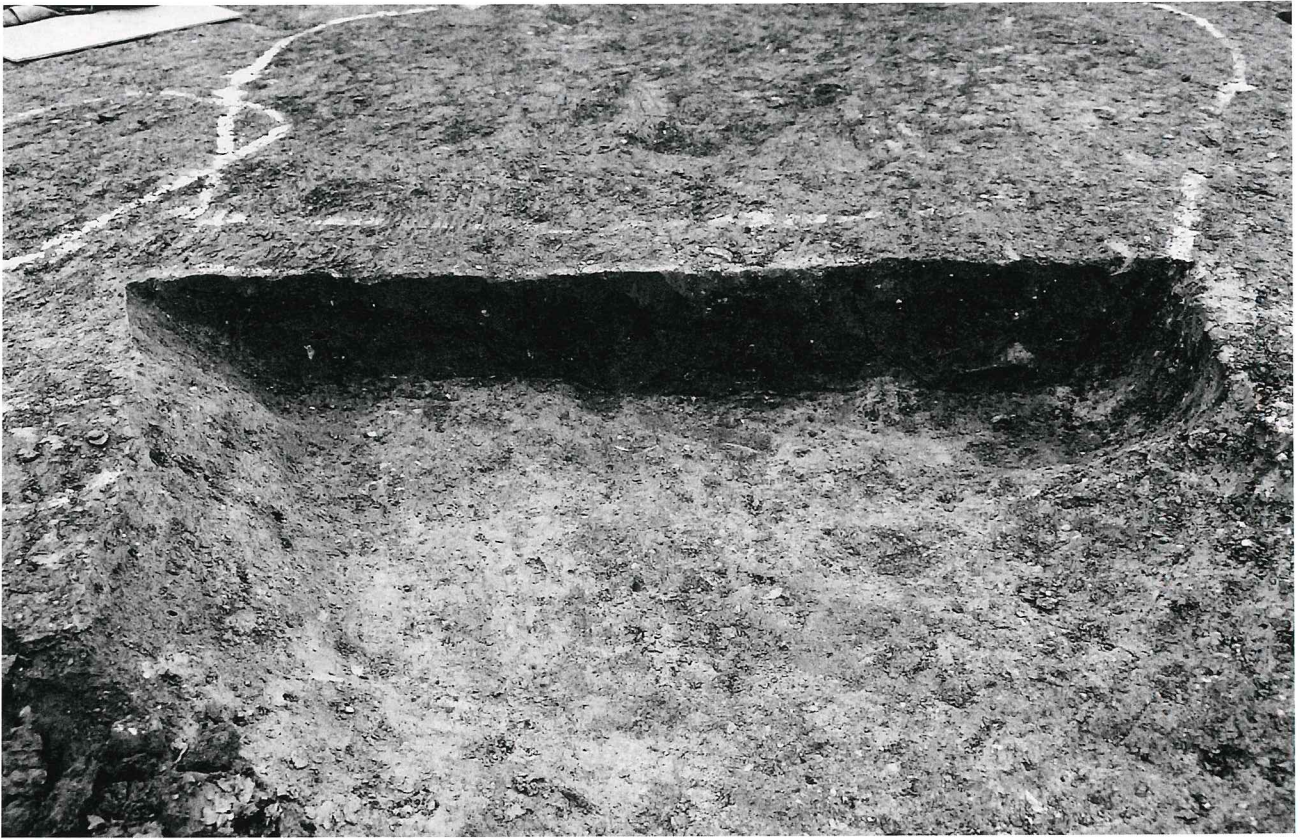
(2) S Z14 (東側の溝は攪乱のため不明である。北西より)



(1) S Z14 (上が北西方向である。真上より)



(2) S Z14北溝 (最低2回の再掘削が認められた。西より)



(1) S Z14南溝土層
(幅が広いので再掘削されている可能性が高い。土層からは南側に拡張されたと思われる。西より)



(2) S Z14西溝土層
(土層からは2回の再掘削が認められたが、新旧関係は良く分からなかった。北西より)



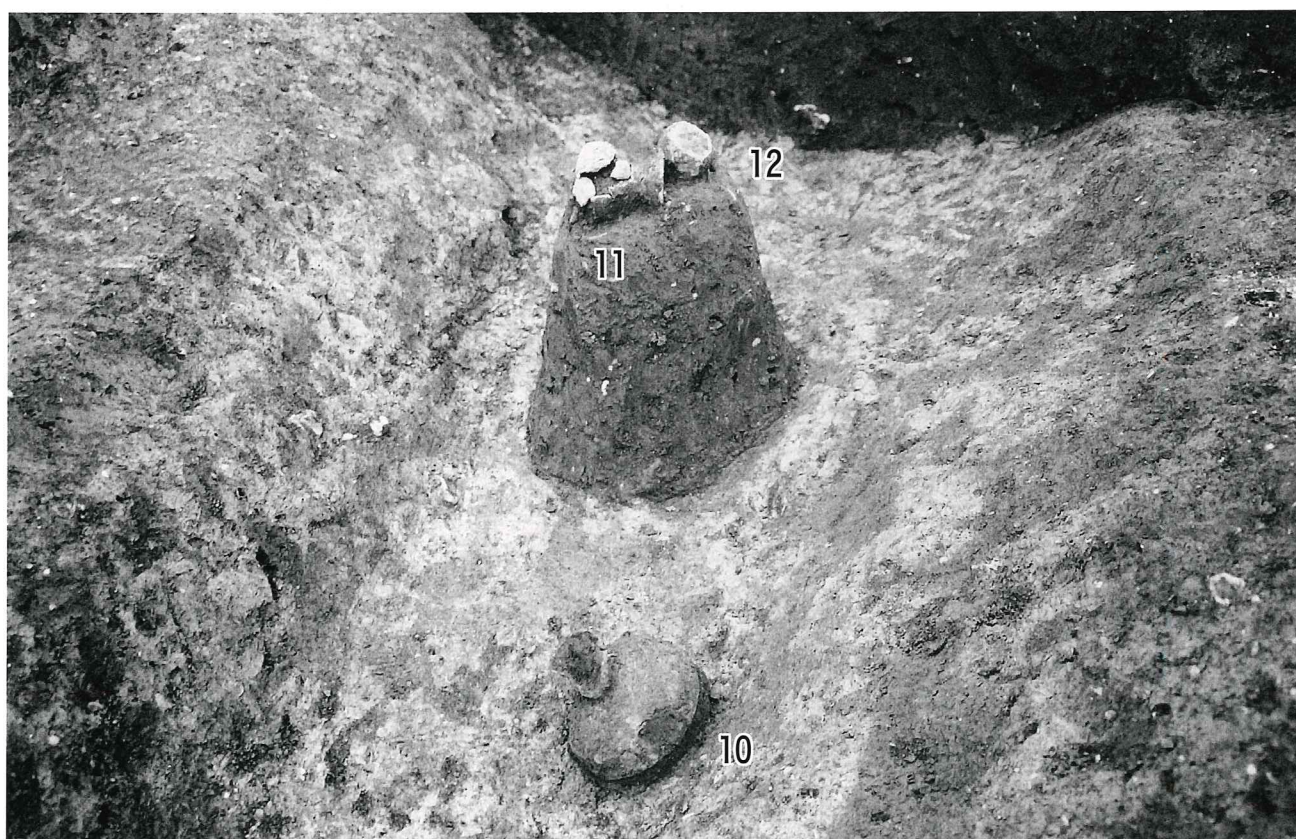
(1) S Z14北溝出土土器 (1～9の土器で破片化した壺形土器が主体である。東より)



(2) S Z14北溝出土土器 (1～8の土器で完形率の高い小型壺を含む。東より)



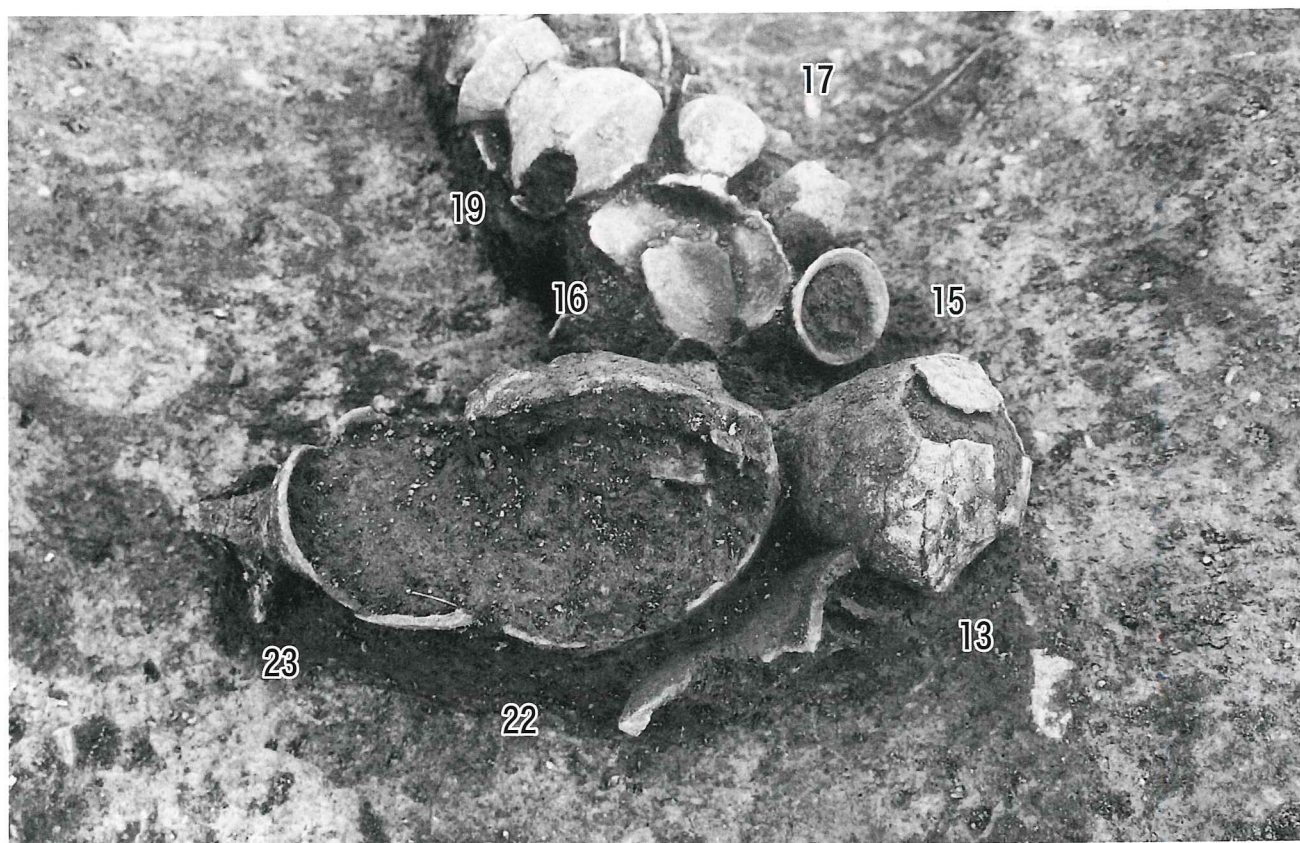
(1) S Z 14北溝出土土器 (24・25の土器で破片化している壺形土器である。南より)



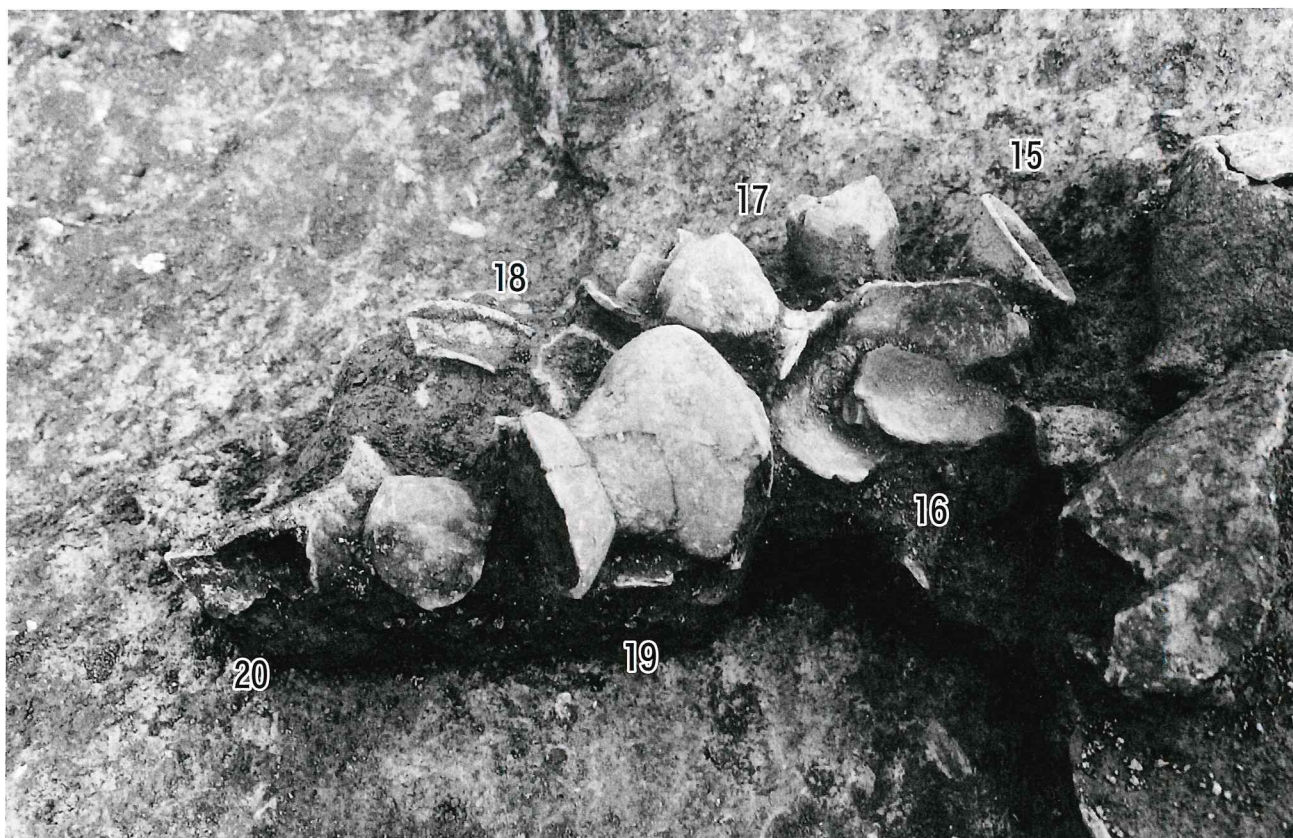
(2) S Z 14北溝出土土器
(10～12の土器で上層より完形率の高い小型壺、下層より高坏が出土した。東より)



(1) S Z14北溝出土土器
(13～23の土器で破片化した壺形土器や高坏が見られる。西より)



(2) S Z14北溝出土土器
(13～19・22・23の土器で破片化した中型壺や高坏、完形率の高い小型壺が出土している。東より)



(1) S Z 14北溝出土土器 (15～20の土器で小型壺は完形率が高い。南より)



(2) S Z 14南溝出土土器
(1～11の土器で破片化した壺形土器や高坪が見られる。西より)



(1) S Z14南溝出土土器（1～4の土器で破片化した高坏が目立つ。北より）



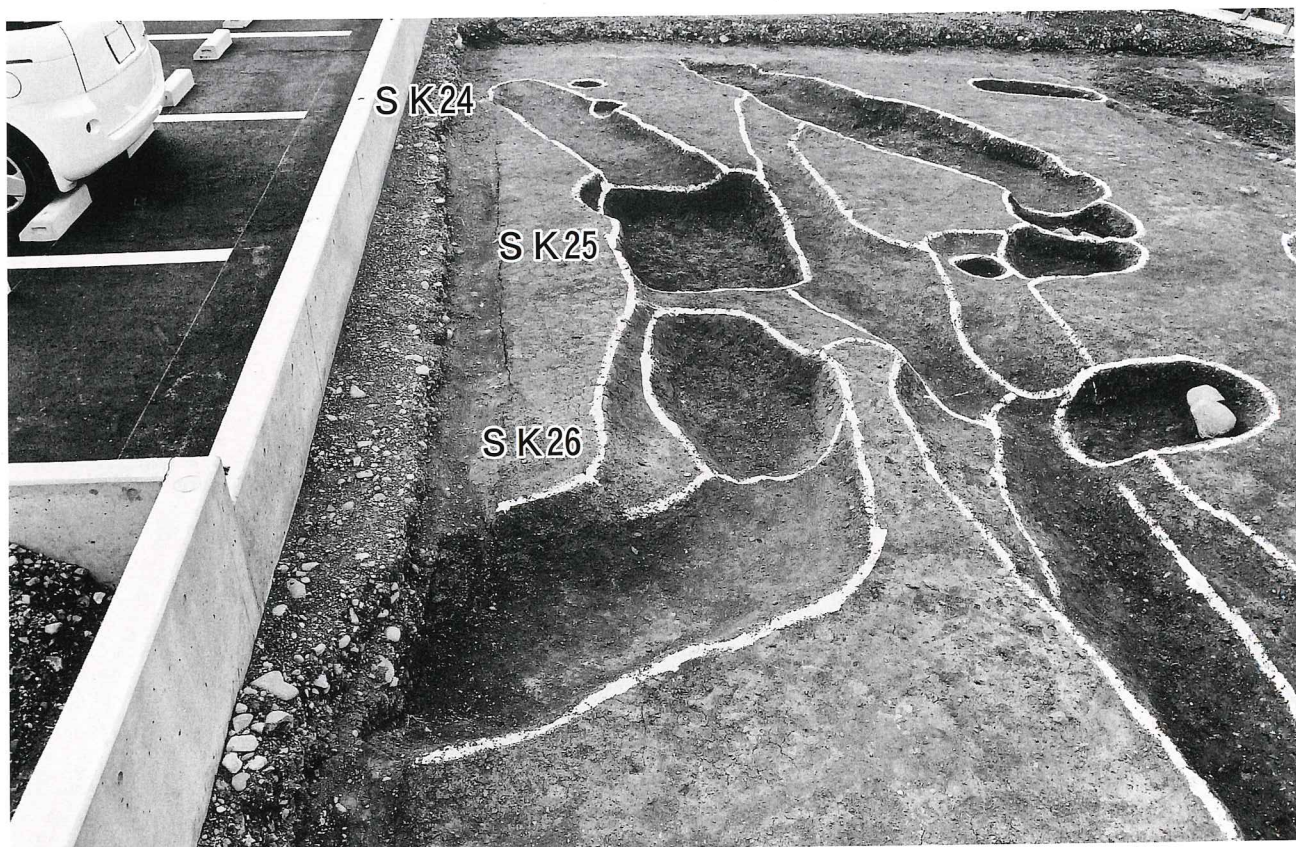
(2) S Z14南溝出土土器（5・6の土器で小型壺は完形率が高い。北より）



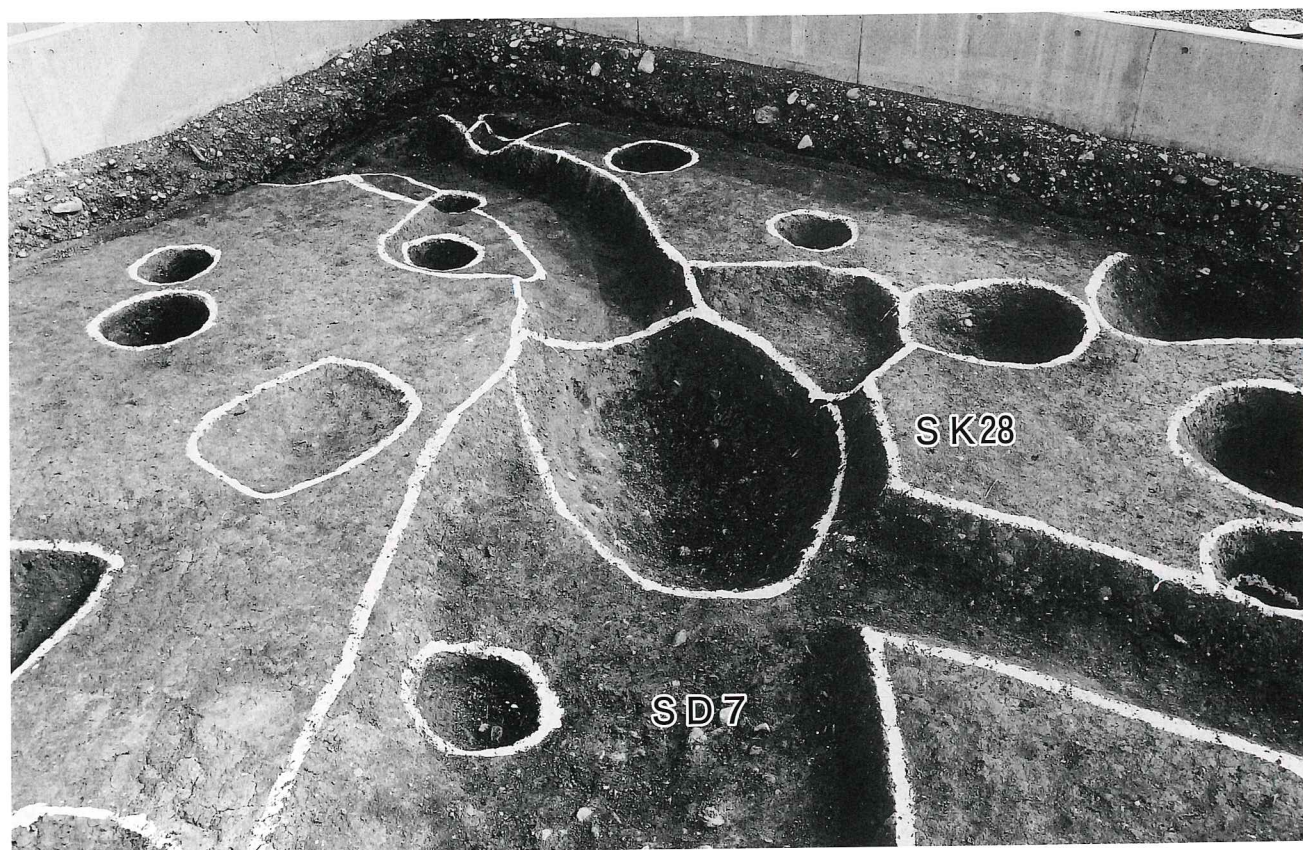
(1) S Z14南溝出土土器
(7～10の土器で完形率が高い中・小型壺が見られる。北より)



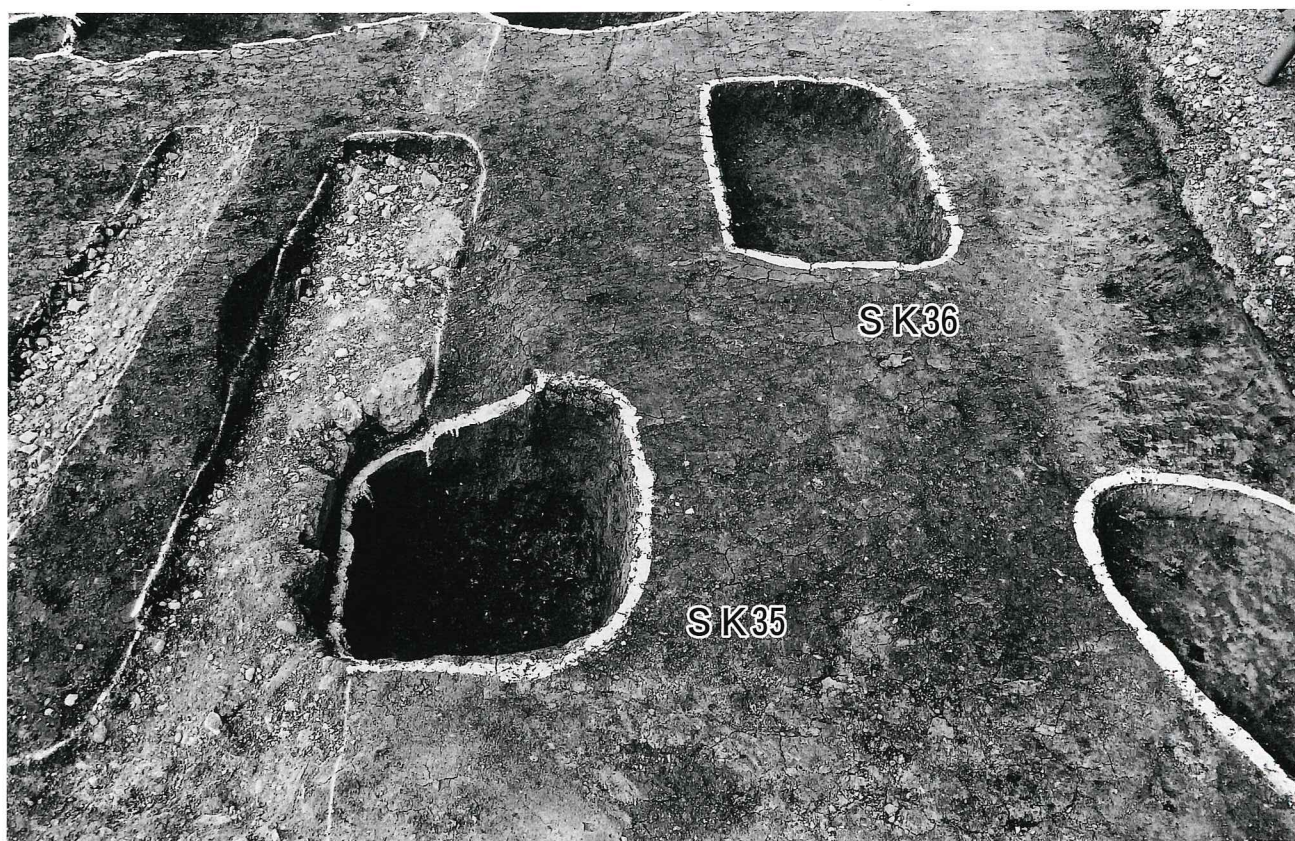
(2) S Z15
(弥生時代中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓と思われる。北より)



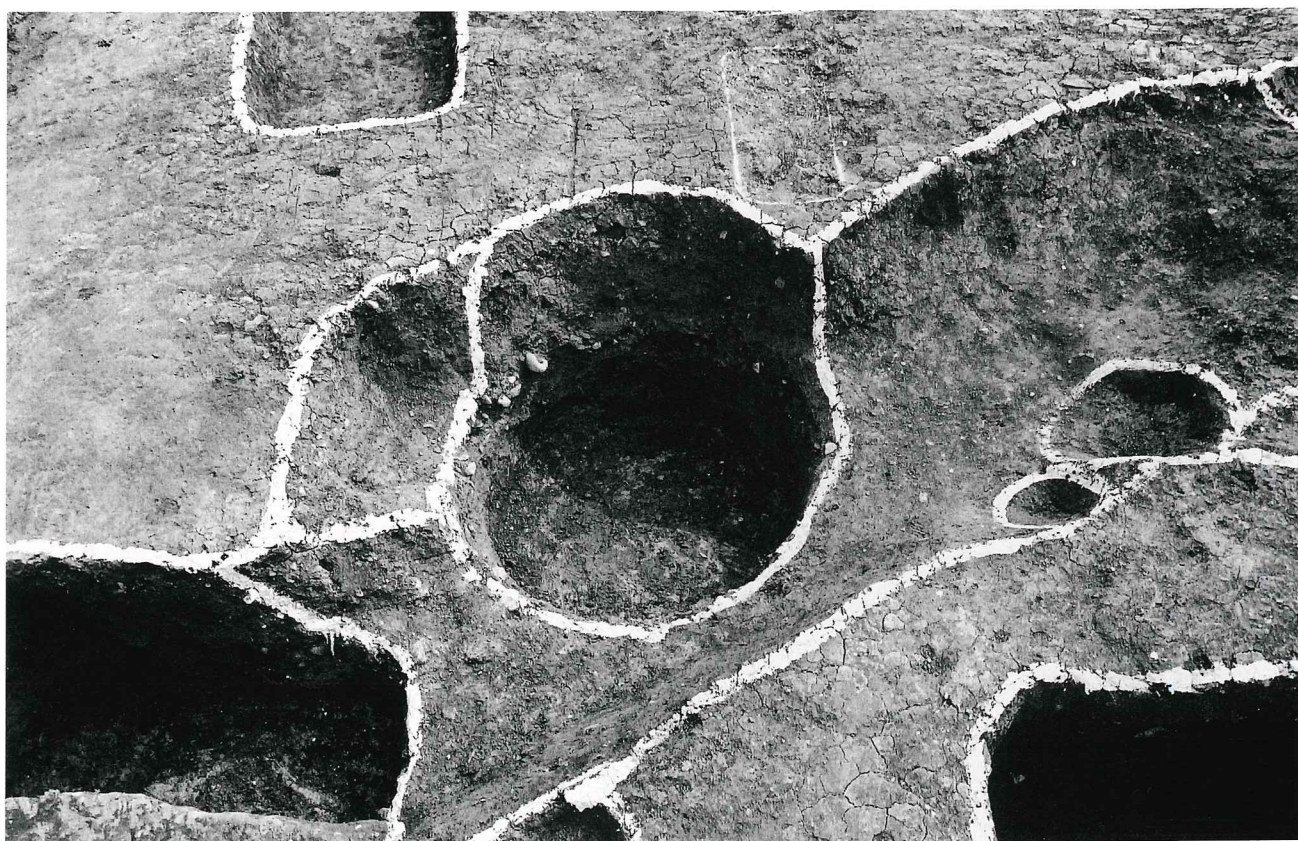
(1) S K24~26 (近世末期の土坑群である。北より)



(2) S K28 (深い不定形の近世末期の土坑である。西より)



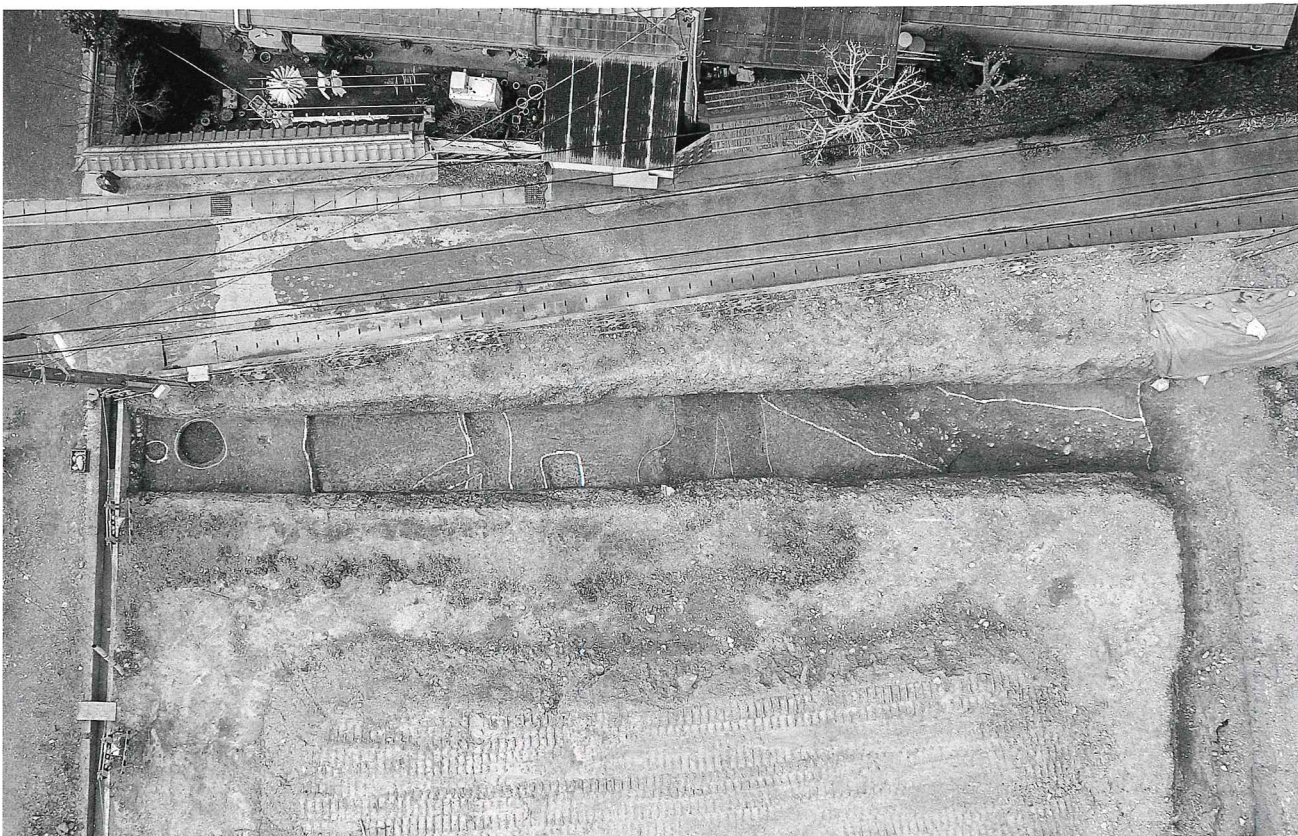
(1) S K35・36 (近世末期の方形土坑である。東より)



(2) S K37 (近世末期の水溜用の円形土坑である。西より)



(1) 第46次発掘調査区北区空中写真全景
(奈良時代の区画溝や中世の溝が見られる。手前は谷地形となっている。北より)

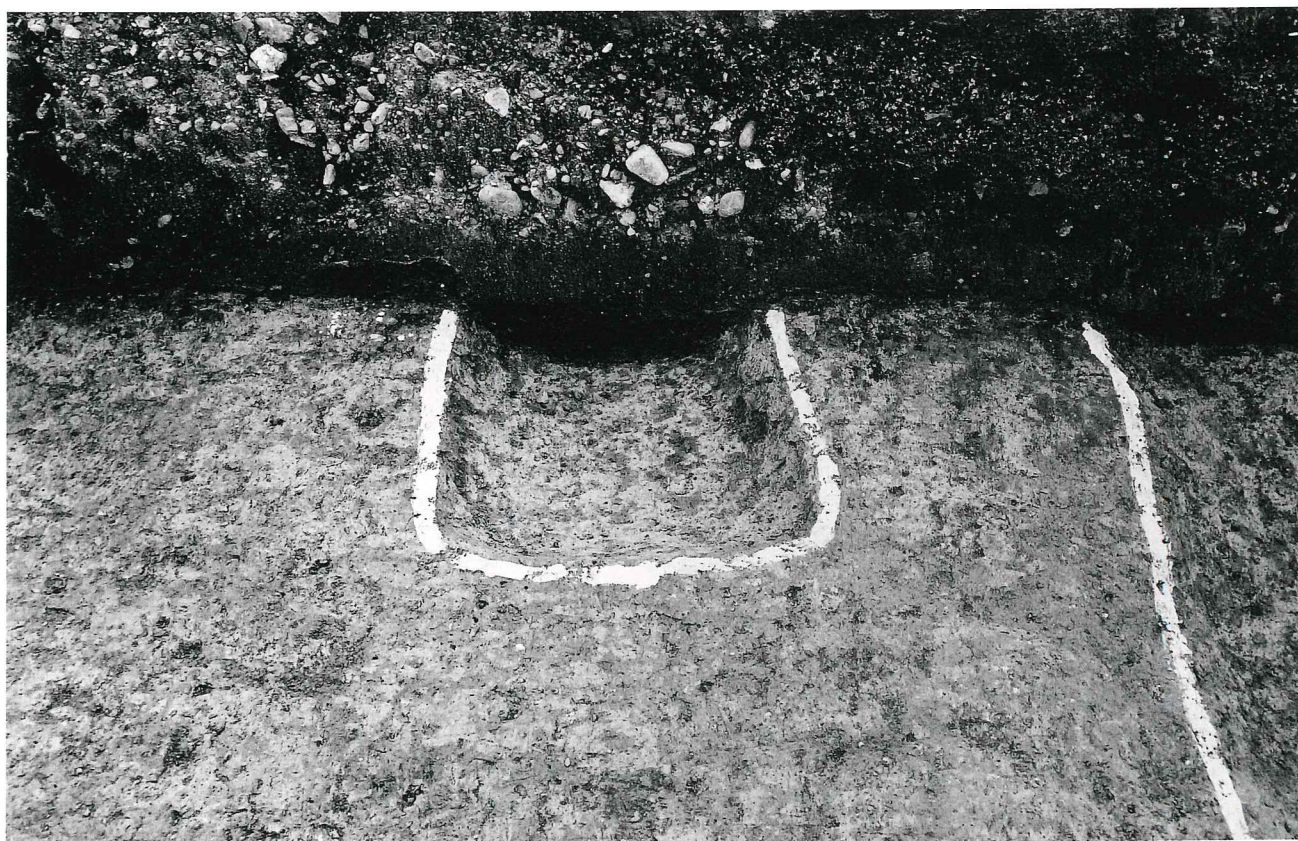


(2) 第46次発掘調査区北区空中写真全景
(左側に奈良時代の区画溝、右側に中世の溝が見られる。上が西方向である。真上より)



(1) SD7北溝

(奈良時代の郡衙正倉院の北側を区画する溝と考えられる。残存状況は悪いが、北半区で確認できたSD7西溝と規模・形態とも類似している。南より)



(2) SK39 (近世末期の方形の土坑である。西より)



(1) S D29 (中世の溝で、北側の谷に注いでいた排水溝と思われる。南より)



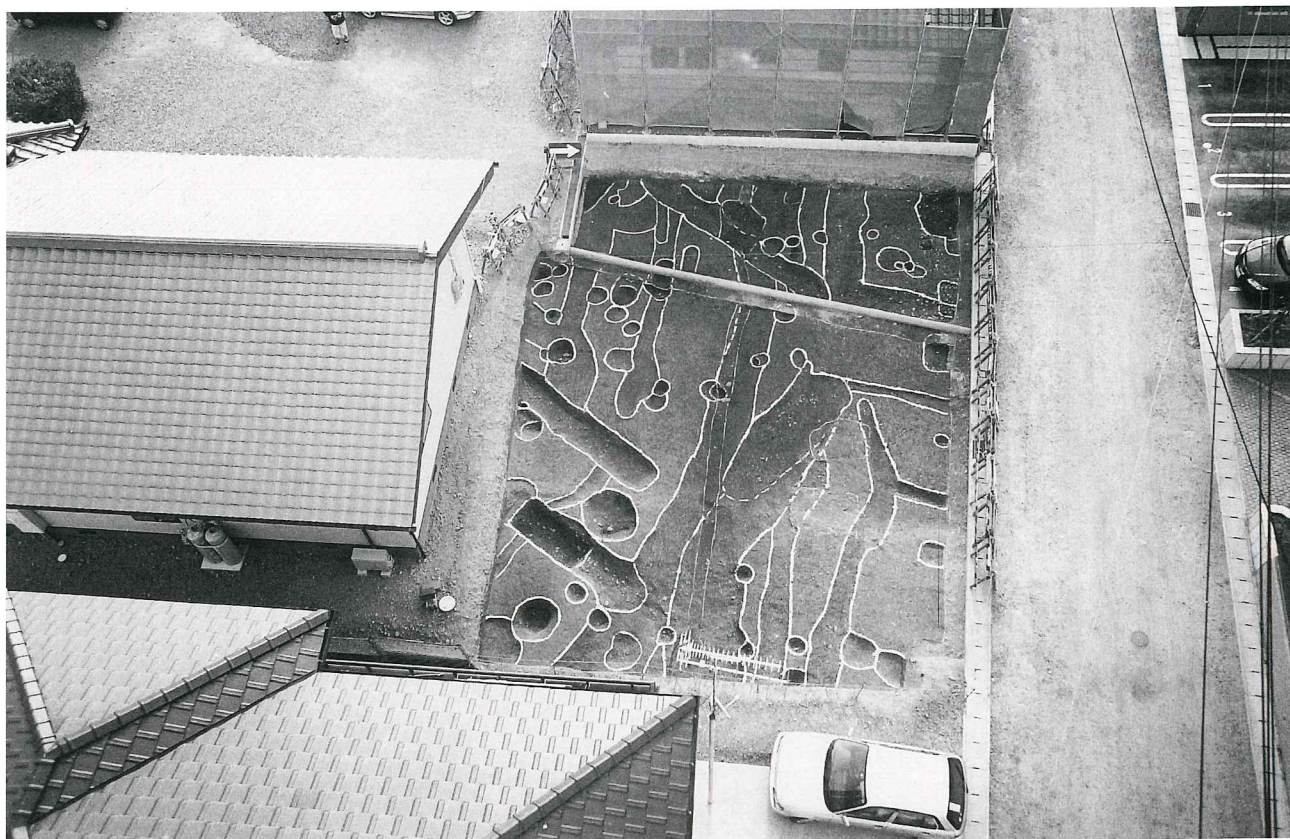
(2) 人力による作業風景 (S Z13東溝の土器検出状況。南より)



(1) 重機による表土掘削作業風景
(包含層が存在しなかったため、遺構確認面まで表土掘削をすることができた。)

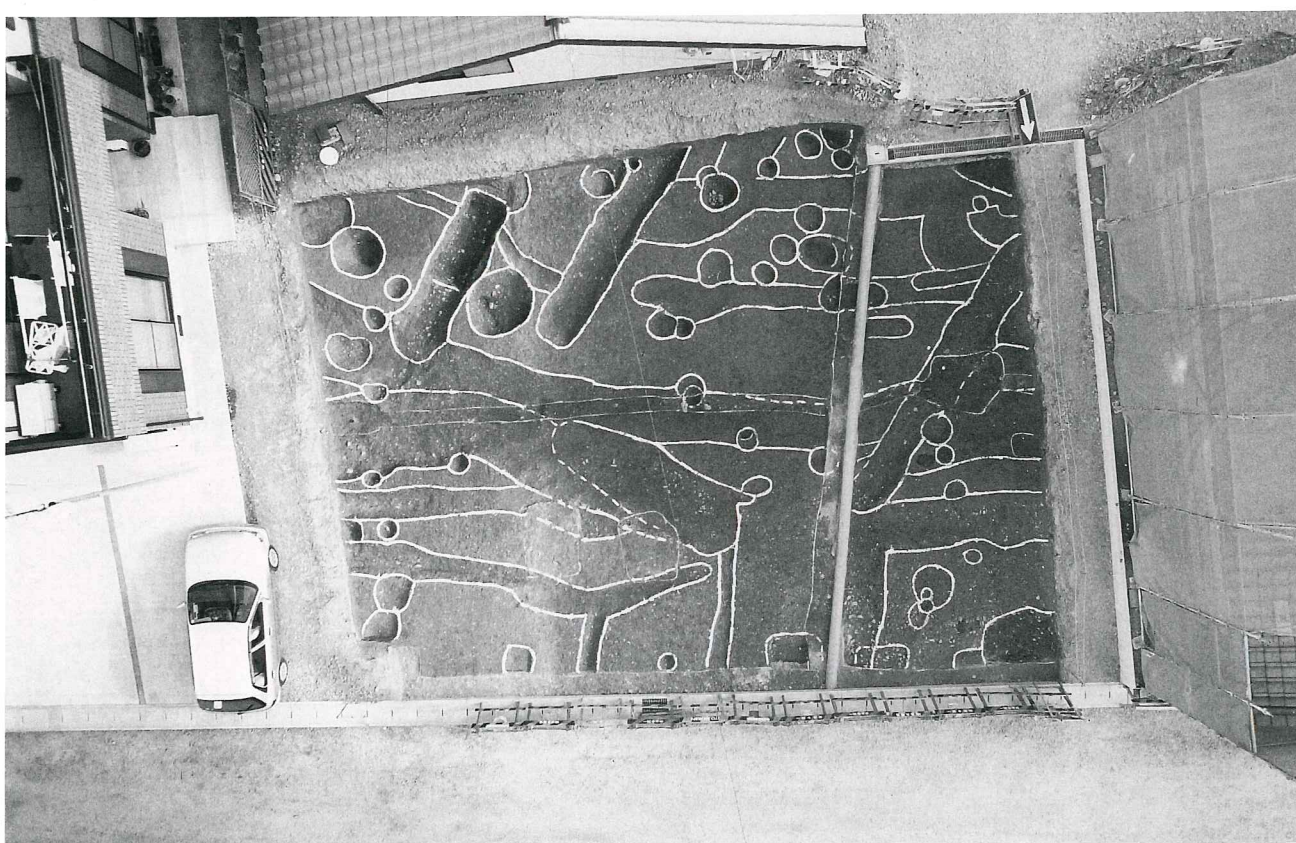


(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量風景

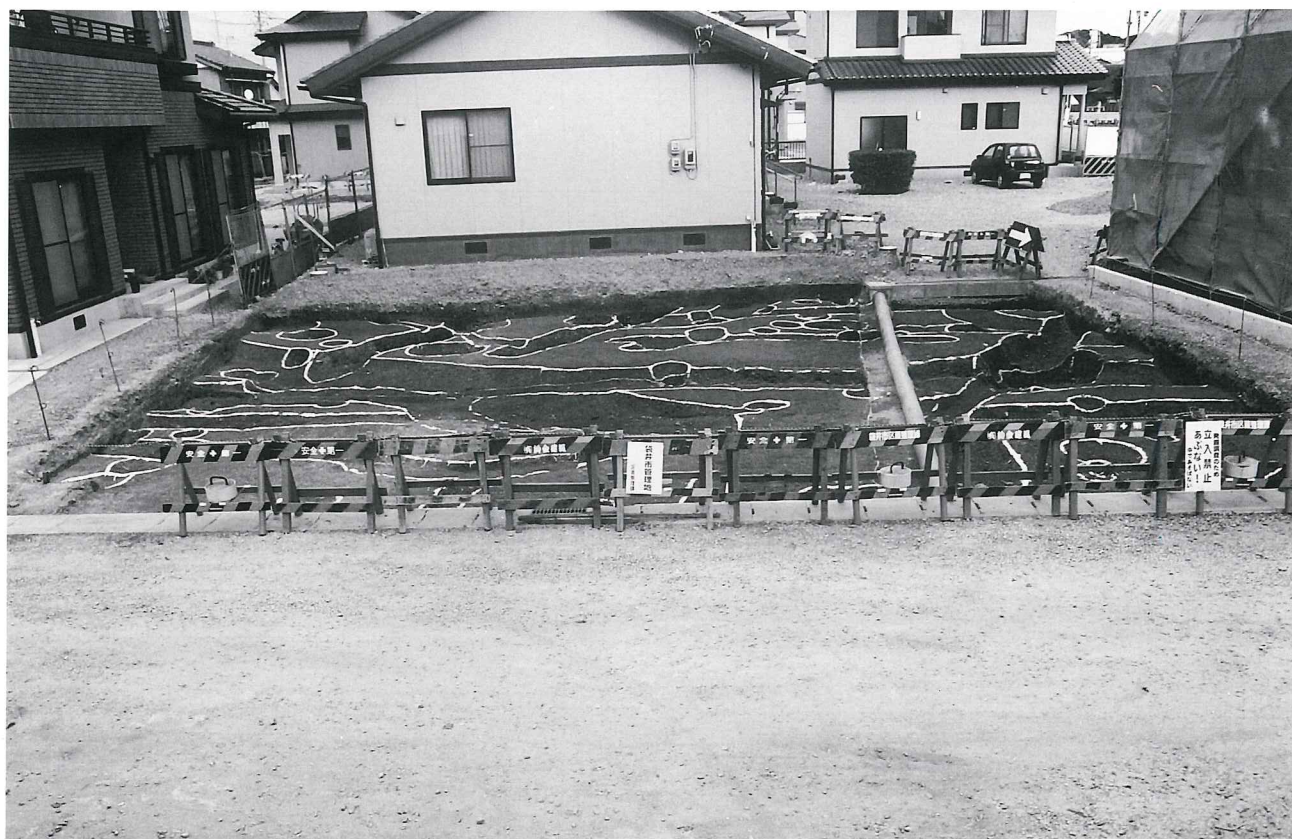


(1) 第48次発掘調査区空中写真全景

(弥生中期・古墳初頭期の方形周溝墓や奈良時代の大型掘立柱建物、近世末期の区画溝が見られる。北より)



(2) 第48次発掘調査区空中写真全景 (上が東方向である。真上より)



(1) 第48次発掘調査区全景（西より）



(2) SH5（郡衙正倉院中枢倉庫群南辺の建物の一部であろう。北より）



(1) 柱穴（古墳後期の竪穴住居の柱穴であろうか。西より）



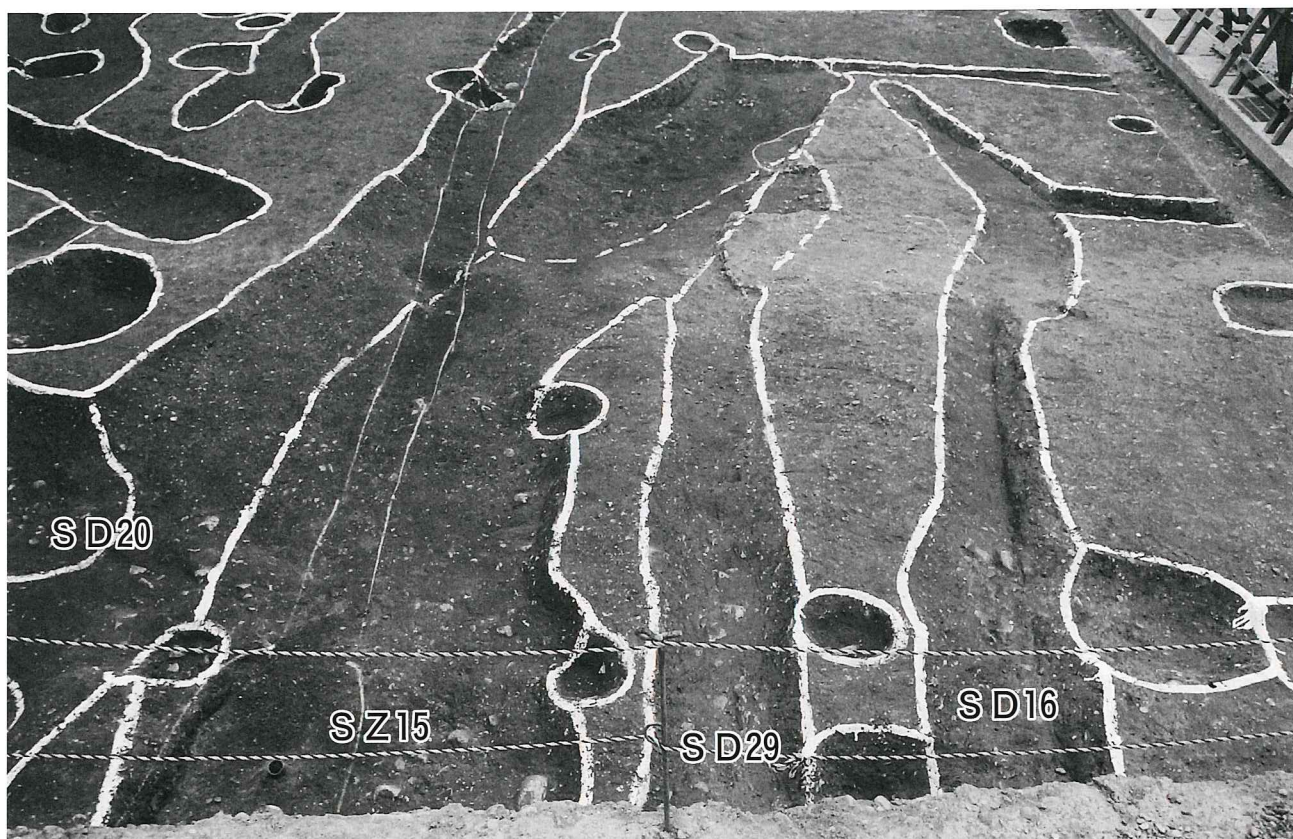
(2) S Z15（弥生中期の四隅に陸橋のある方形周溝墓である。西より）



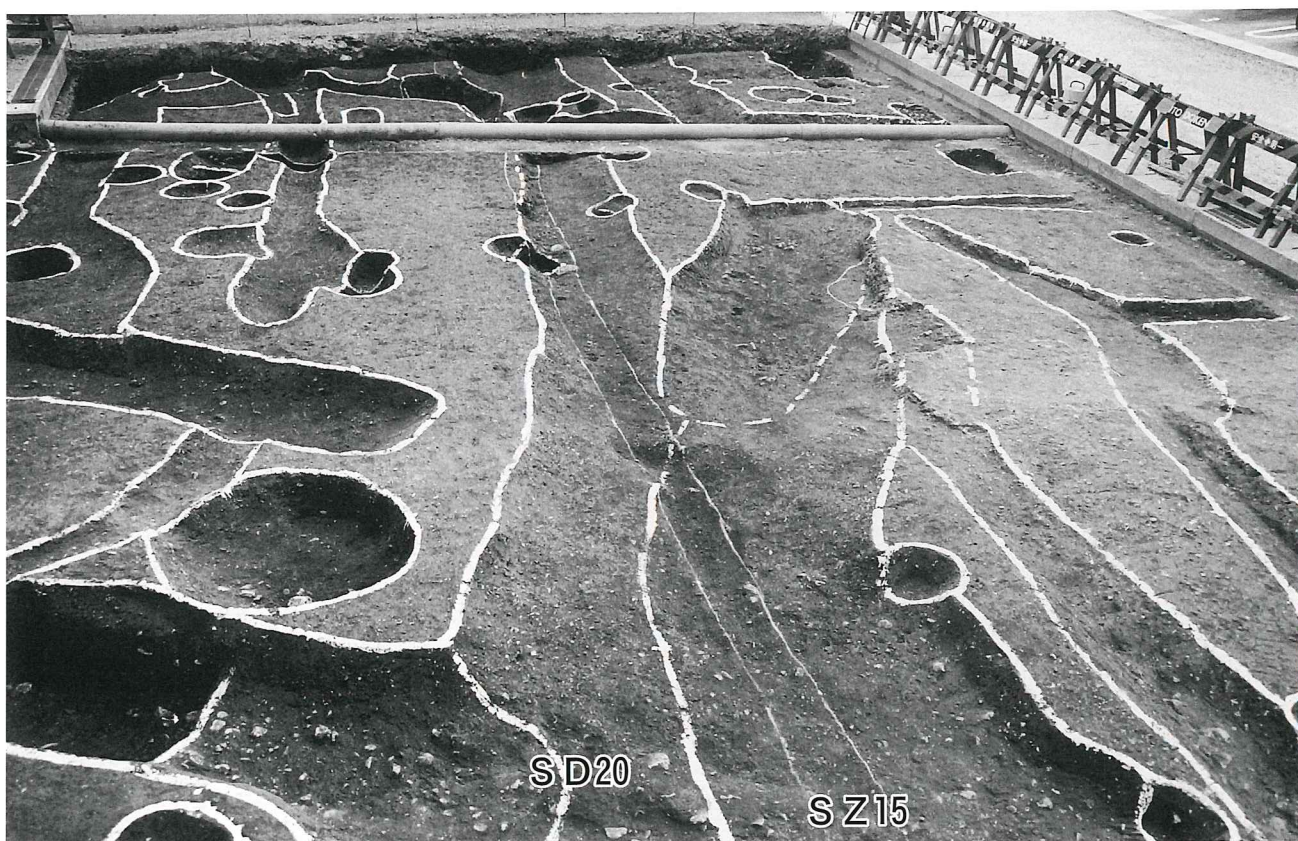
(1) S Z 15北溝土層（土層からは自然堆積で盛土の流入は確認できない。北西より）



(2) S Z 15南溝出土土器（破片化した壺形土器である。西より）



(1) S Z15 S D15・16・29
(方形周溝墓は古墳初頭、溝は近世末期の区画溝と思われる。北より)



(2) S Z15 S D20 (重複部分が多く全体の形態が良く分からない。北より)



(1) 土坑群（調査区北東端に集中的に近世末期の土坑群が認められた。南西より）



(2) 重機による表土掘削作業風景
(包含層が存在しなかったため、遺構確認面まで表土掘削ができた。)



(1) 八木・岡田邸立会調査（矢印部分より土器が出土した。北西より）



(2) 八木・岡田邸立会調査出土土器
（完形率の高い壺形土器と鉢形土器がまとまって出土した。方形周溝墓に伴うものか。南より）

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ		シャシンズハンヘン			
書名		掛之上遺跡43・46・48 写真図版編					
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書15					
編集著者名		松井一明					
編集機関名		袋井市教育委員会					
所在地		〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028 ☎0538-23-9269					
発行年月日		2006年3月25日					
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡					
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 44′ 24″	137° 55′ 53″	20050513	2084.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う宅地造成	
22216	151			～ 20060325			
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期	方形周溝墓 土坑	土器・石器		弥生時代中・ 後期大方形周 溝墓群・拠点 集落
			古墳時代 前・後期	竪穴住居 掘立柱建物	土器（土師器・須 恵器）		有力集落
			奈良時代	大型掘立柱建物 区画溝	須恵器		郡衙推定遺跡
			近世	土坑 屋敷地割溝	陶磁器・かわらけ		

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書15

掛之上遺跡 43・46・48

— 写真図版編 —

発行年月日 2006年3月25日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0022 静岡県袋井市方丈3丁目3-11